

シ ラ バ ス

(5年次用)

平成30年度 5年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金
	3月26日～3月30日	春 休				
1	4月2日～4月6日	BSL ②-1				
2	4月9日～4月13日	BSL ②-2				
3	4月16日～4月20日	BSL ②-3				
4	4月23日～4月27日	BSL ②-4				
5	4月30日～5月4日	祝日			祝日	祝日
6	5月7日～5月11日	BSL ③-1				
7	5月14日～5月18日	BSL ③-2				
8	5月21日～5月25日	BSL ③-3				
9	5月28日～6月1日	BSL ③-4				
10	6月4日～6月8日	BSL ④-1				
11	6月11日～6月15日	BSL ④-2				
12	6月18日～6月22日	BSL ④-3				
13	6月25日～6月29日	BSL ④-4				
14	7月2日～7月6日	BSL ⑤-1				
15	7月9日～7月13日	BSL ⑤-2				
16	7月16日～7月20日	祝日		BSL ⑤-3		
17	7月23日～7月27日			BSL ⑤-4		
18	7月30日～8月3日	夏 休				
19	8月6日～8月10日	夏 休				
20	8月13日～8月17日	夏 休				
21	8月20日～8月24日	夏 休				
22	8月27日～8月31日	BSL ⑥-1				
23	9月3日～9月7日	BSL ⑥-2				
24	9月10日～9月14日	BSL ⑥-3				
25	9月17日～9月21日	祝日		BSL ⑥-4		
26	9月24日～9月28日	祝日		BSL ⑦-1		
27	10月1日～10月5日	BSL ⑦-2				
28	10月8日～10月12日	祝日		BSL ⑦-3		
29	10月15日～10月19日	BSL ⑦-4				
30	10月22日～10月26日	BSL ⑧-1				
31	10月29日～11月2日	BSL ⑧-2				
32	11月5日～11月9日	BSL ⑧-3				
33	11月12日～11月16日	BSL ⑧-4				
34	11月19日～11月23日	BSL ⑨-1				
35	11月26日～11月30日	BSL ⑨-2				
36	12月3日～12月7日	BSL ⑨-3				
37	12月10日～12月14日	BSL ⑨-4				
38	12月17日～12月21日	冬 休				
39	12月24日～12月28日	冬 休				
40	12月31日～1月4日	冬 休				
41	1月7日～1月11日	祝日		科目別試験		
42	1月14日～1月18日	科目別試験				
43	1月21日～1月25日	科目別試験				
44	1月28日～2月1日	関連病院・地域実習I（4W）				
45	2月4日～2月8日					
46	2月11日～2月15日					
47	2月18日～2月22日					
48	2月25日～3月1日					
49	3月4日～3月8日	科目別試験 再試験				
50	3月11日～3月15日	科目別試験 再試験				
51	3月18日～3月22日	春 休				
52	3月25日～3月29日	春 休				

例：【BSL ②-1】…第2クール 第1週、の意。

科目名：BSL (Bed Side Learning) ※臨床系全講座担当

場 所：附属病院内各施設

区 分	内 容
学 習 目 標	臨床実習 (bed side learning:BSL)では、文字通りbed sideにおいて診療チームに参加し、医師として必要な知識、思考法（臨床推理）、技能（スキル）、態度の基本的な内容を学ぶことを目的とする。病める患者さんを直接相手にした実習を通じて、医療現場で必要とされる対応力など実践的な臨床能力を養う。病み・苦しむ人とのコミュニケーションの方法を含め、全人的医療を遂行するための行動法を先輩医師の直接指導のもとに習得する。また、先輩医師の行動を観察して座学では学べない、医師としてのプロフェッショナルリズム（倫理的実践、内省/自己認識、行動に対する責任、患者への敬意、チームワーク、社会的責任）の基本も学ぶ。 実際には、医療面接、身体診察、診断的・治療的手技、診療録の記録、症例提示、総合判断能力などの臨床技能、社会的背景の違う患者への対応、臨床推論などの知識の使い方、情報収集の方法を学習する。さらに、チーム医療の遂行に大切な、医療チームの構成員とのコミュニケーションや協調に関する能力や態度も習得する。 大学病院での実習のみでは不足する部分を補完するため、地域と大学が協力して行う地域基盤型臨床実習（学外実習）をさらに充実させている。いくつかのサブユニットでは地域の診療所においてプライマリケアの外来診療実習、在宅医療、予防医療、生活支援などについて学習する。
臨床配属学生の手術部における実習についての心構えと注意	1. 外科学系診療科における最も重要な治療である手術を行う場であることを銘記すること。 2. 多くの医師、看護師、臨床工学技士等の医療従事者が、各々職務を尽くしており、その職務を妨げないように注意すること。 3. 細心の注意をもって清潔・不潔の別を守り、私語は慎み、手術室内では職員の指示に従うこと。 4. 手術室に入るには、各配属診療科指導医の引率の下に次に事項に注意すること。 1) 院内履き（白を基調としたスニーカータイプの足全体が覆える安全で安楽なもの）で更衣室に入る。 2) 学生用室内着（ライトブルー）に着替える（パンツ等以外は全て着替える）。自分の着衣は、ロッカーに入れ、番号確認し、鍵を正しくかける。 3) 帽子・マスク・靴下を正しくつける。手術帽からはみ出る長髪者の入室は許さない。 4) 手持品（小型ノート・ペン）以外は、手術室内に持って入らない。 5) 衛生的手洗いの後、備えつけのヒビソフトにて手指を消毒後手術部内廊下に入る。予定の手術室内に適宜入り、指導医の指示に従って実習の成果をあげる。 6) 清潔の器械・器具に近づく時は十分に注意する。 7) 手術時手洗いをし、手術に入る際には、必要に応じて、手術部廊下にて、予めディスポのシューカバーを着用する。また、目のゴーグルつきのサージカルマスクを着用する。 8) 昼食等で一旦不潔になり再入室する時は、前項のとおり再び行う。 9) 使用済の室内着は、緑のランドリーボックスにいれ、帽子・マスクは専用のゴミ箱に捨てる。 5. 以上、臨床医学基本実習で学んだ手術部への入り方、出方を遵守する。

成績評価方法と基準	1, B S L の単位認定及び成績記録について 1-1, B S L の単位は36単位であり、B S L 全サブユニットの「合格」をもって認定する。 1-2, B S L の成績は、全サブユニットの総合点数(100点満点換算)に基づき記録する。 1-3, B S L の成績において、小数点以下の端数が生じた場合は、これを切り捨てる。 2, B S L サブユニットの合否判定について 2-1, B S L において、29のサブユニットを設ける。 2-2, 各サブユニットは、実習及び科目別試験を実施する。 2-3, 各サブユニットの合否判定は、「実習評価の点数」と「科目別試験」の点数との総合評価(100点満点換算)により行い、60点以上を合格とする。 2-4, サブユニットの総合評価における、実習評価点数と科目別試験評価点数との割合は40:60(実習評価40点, 科目別試験60点)とする。 2-5, 2-3において、小数点以下の端数が生じた場合は、これを切り捨てる。 3, B S L 実習評価について 3-1, 各サブユニットにおける到達目標及び実習評価方法については、B S L ガイドに明記する。 3-2, B S L 実習評価は、60点以上(100点満点換算)を合格とする。 3-3, B S L の実習評価において不合格のサブユニットが5つ以上ある者には、科目別試験の受験資格を与えない。 4, 科目別試験について 4-1, 科目別試験における「科目」は、B S L 全サブユニットにより構成される。 4-2, 試験は1科目30分で行い、全29科目の試験を行う。 4-3, 各サブユニットは、試験の概要に関してB S L ガイドに明記する。 4-4, 試験期間は3週間とする。 4-5, 科目別試験の合否判定は、試験単独では行わず、2-3の規定に基づきサブユニット評価の合否を判定する。 4-6, 4-5(2-3)において、不合格のサブユニット数が10以内の場合は科目別試験の再試験を受験できる。ただし、科目別試験において30点未満(100点満点換算)の科目がある者は科目別試験の再試験受験資格を失う。 4-7, 科目別試験の追試験は、サブユニット責任者が疾病その他やむを得ないと認めた場合にのみ行う。試験を受けることができない者は、その理由を明記(疾病によるものは医師の診断書を添付)し、事前にサブユニット責任者に願い出て許可を受けなければならない。追試験の期日は別途連絡する。 4-8, 再試験の追試験は行わない。 4-9, 再試験の結果、サブユニットを合格した場合のサブユニット評価は60点とする。 4-10, 科目別試験の再試験の受験資格がない者、及び再試験の結果サブユニットの合否判定において1つでも不合格となった者は、5年次に移籍しB S L 全てを再履修する。 5, B S L 不合格の場合の取り扱いについて 次の5-1~5-4の場合はB S L 不合格となる。不合格となった者は5年次に移籍し、4月以降のB S L の全てを再履修する。なお、不合格科目を全て再履修できるように配属を配慮する。 5-1, B S L 実習評価において、5つ以上のサブユニットで「不合格」となった場合。 5-2, 科目別試験において、30点未満(100点満点換算)の科目がある場合(再試験受験資格の喪失) 5-3, B S L サブユニットの合否判定において、不合格科目数が11以上ある場合(再試験受験資格の喪失) 5-4, 科目別試験再試験後のB S L サブユニット合否判定において、不合格のサブユニットがある場合(B S L サブユニットの不合格)
-----------	--

平成30年2月～12月 BSL週割表

			サブユニット名 ※実習評価・科目別試験対象科目		ユニットA		ユニットB		ユニットC		ユニットD		ユニットE		ユニットF		ユニットG		ユニットH		ユニットI												
					消化器1	消化器2	消化器3	整形	神経2	口腔	救急・小児外科	総合内科	臨検	免疫	腎	泌尿器	放射線	呼吸器1	呼吸器2	糖尿・内分泌	感染	生殖・周産期	発達	循環器1	循環器2	麻酔	耳鼻	形成	眼	皮膚	神経1	腫瘍血液	精神
					消化器内科			整形外科		救命救急科		膠原病リウマチ内科		呼吸器内科		産科婦人科		循環器内科		耳鼻咽喉・頭頸部外科		神経内科											
					病理部		脳神経外科		小児外科		腎臓内科		呼吸器外科		小児科		心臓血管外科		形成外科		腫瘍血液内科												
					食道胃腸外科		歯科口腔外科		総合内科		泌尿器科		糖尿病・内分泌内科		病理部		麻酔科		眼科		輸血部												
					肝胆膵外科				検査部		放射線科		感染症内科						皮膚科		精神科神経科												
乳腺内分泌外科																																	
第1クール	第1週	2月5日～2月9日	1班	9班	8班	7班	6班	5班	4班	3班	2班																						
	第2週	2月13日～2月16日																															
	第3週	2月19日～2月23日																															
	第4週	2月26日～3月2日																															
第2クール	第1週	4月2日～4月6日	2班	1班	9班	8班	7班	6班	5班	4班	3班																						
	第2週	4月9日～4月13日																															
	第3週	4月16日～4月20日																															
	第4週	4月23日～4月27日																															
第3クール	第1週	5月7日～5月11日	3班	2班	1班	9班	8班	7班	6班	5班	4班																						
	第2週	5月14日～5月18日																															
	第3週	5月21日～5月25日																															
	第4週	5月28日～6月1日																															
第4クール	第1週	6月4日～6月8日	4班	3班	2班	1班	9班	8班	7班	6班	5班																						
	第2週	6月11日～6月15日																															
	第3週	6月18日～6月22日																															
	第4週	6月25日～6月29日																															
第5クール	第1週	7月2日～7月6日	5班	4班	3班	2班	1班	9班	8班	7班	6班																						
	第2週	7月9日～7月13日																															
	第3週	7月17日～7月20日																															
	第4週	7月23日～7月27日																															
第6クール	第1週	8月27日～8月31日	6班	5班	4班	3班	2班	1班	9班	8班	7班																						
	第2週	9月3日～9月7日																															
	第3週	9月10日～9月14日																															
	第4週	9月18日～9月21日																															
第7クール	第1週	9月25日～9月28日	7班	6班	5班	4班	3班	2班	1班	9班	8班																						
	第2週	10月1日～10月5日																															
	第3週	10月9日～10月12日																															
	第4週	10月15日～10月19日																															
第8クール	第1週	10月22日～10月26日	8班	7班	6班	5班	4班	3班	2班	1班	9班																						
	第2週	10月29日～11月2日																															
	第3週	11月5日～11月9日																															
	第4週	11月12日～11月16日																															
第9クール	第1週	11月19日～11月22日	9班	8班	7班	6班	5班	4班	3班	2班	1班																						
	第2週	11月26日～11月30日																															
	第3週	12月3日～12月7日																															
	第4週	12月10日～12月14日																															
※ 祝日を除く。																																	
科目別試験		日程未定											科目別試験 全29科目																				
科目別試験(再試)		日程未定																															

ユニット	ユニットA
サブユニット名	消化器1（消化器内科・病理学）
BSL担当教員 ／連絡先	飛松 和俊（連絡先：研究棟 A6F 医局 (6-010 号) / 内線 6305, PHS 71502）
実習担当教員	内科学講座 消化器内科学分野 西 慎一 教授 梅垣 英次 特命教授 吉田 優 准教授 森田 圭紀 講師 矢野 嘉彦 講師 星 奈美子 助教 増田 充弘 助教 塩見 英之 助教 石田 司 助教 田中 心和 特命助教 豊永 高史 准教授 飛松 和俊 特定助教 大井 充 特定助教 伊藤 智雄 教授 全 陽 特命教授 光学医療診療部 病理学講座 病理診断学分野
実習概要	消化器1では、各種消化器疾患すなわち食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・肝臓・胆道・膵臓疾患の診断と治療を幅広く扱います。対象疾患としては、食道癌・胃癌・大腸癌・胆道癌・膵臓癌・肝臓癌などについて内視鏡、超音波を用いた各種検査、内科的治療（内視鏡的粘膜切除術、内視鏡的粘膜下層剥離術、胆膵内視鏡治療、経皮的ラジオ波焼灼術、癌化学療法など）を行うとともに、放射線科や外科と共同で集学的治療に取り組んでいます。また、潰瘍性大腸炎、クローン病、原発性胆汁性胆管炎、急性肝不全、重症急性膵炎などの難治性特定疾患に対する治療も広く行っています。病理実習では「癌取り扱い規約」に従った検体の固定・切り出し法などについて学習し、疾患の理解を深めます。 本BSLでは、これらの患者を実際に主治医団の一員として担当することで、これまでのチュートリアル教育で身につけた問題解決型自己学習法を実践し、問診、各種検査、診断、治療の実際、患者へのインフォームドコンセント等の実際の医療の流れを生で感じ取ってみたいと思います。学生諸君には単なる「診療の見学」ではなく、積極的な「診療への参加」を期待しています。
到達目標	・担当症例の健康上のプロブレムを抽出し、症候および病態から疾患にアプローチできる。臨床推論に必要な病歴聴取、身体診察、検査の列挙を行うことができる。 ・担当症例の疾患の診断と治療について説明できる。 ・消化器内視鏡検査（上部および下部消化管内視鏡検査、内視鏡的逆行性胆管膵管造影、超音波内視鏡検査）から得られる情報を説明できる。 ・腹部超音波検査において、基本的な走査ができる。
実習評価	評価は全カリキュラムへの出席を最低条件とします。無断欠席・遅刻は不合格の対象とします。やむを得ず欠席・遅刻する場合は事前に担当教員に届け出を行って下さい。評価については、出席、小テスト、レポート評価等を基に総合的に判断します。
科目別試験	選択式の試験を予定しています。 内容は本BSLでの実習および講義の内容を中心に出题します。
オリエンテーション	・Aグループ：第1週の月曜日、午前8時、病棟8階カンファレンス室 ・Bグループ：第3週の月曜日、午前8時、病棟8階カンファレンス室 （尚、月曜日が祝日の場合は火曜日の午前中に行う予定ですが、前の週の金曜日にBSL担当教員に連絡して集合時刻と場所を最終確認してください。）
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットA				
サブユニット名	消化器2，消化器3（食道胃腸外科，肝胆膵外科）				
BSL担当教員／連絡先	肝胆膵外科 田中 基文（連絡先：肝胆膵外科学分野／内線 6302，PHS 73113） 食道胃腸外科 山本 将士（連絡先：食道胃腸外科学分野／内線 5925，PHS 73008） 乳腺内分泌外科 河野 誠之（2018. 2-3 月）、國久 智成（2018 年 4 月以降） （連絡先：乳腺内分泌外科学分野／内線 6302，PHS 73222）				
実習担当教員	外科学講座	肝胆膵外科学分野	福本 巧	教授	
		〃	外山 博近	准教授	
		〃	上野 公彦	講師	
		〃	田中 基文	助教	
		〃	木下 秘我	助教	
		〃	寺井 祥雄	特定助教	
		〃	小松 昇平	特定助教	
		〃	棕棒 英世	特定助教	
		〃	津川 大介	特定助教	
		〃	栗津 正英	特命助教	
		食道胃腸外科学分野	掛地 吉弘	教授	
		〃	鈴木 知志	准教授	
		〃	中村 哲	講師	
		〃	押切 太郎	助教	
		〃	山下 公大	助教	
		〃	金治 新悟	助教	
		〃	松田 佳子	特命助教	
		〃	山本 将士	特命助教	
		〃	長谷川 寛	特命助教	
		乳腺内分泌外科学分野	谷野 裕一	特命准教授	
		〃	河野 誠之	特命講師	
		〃	國久 智成	特定助教	
		低侵襲外科学分野	木戸 正浩	特命教授	
		〃	松田 武	特命准教授	
		国がん医療・研究推進学分野	味木 徹夫	教授	
		〃	角 泰雄	特命教授	
		地域医療ネットワーク学分野	楠 信也	特命教授	
実習概要	ユニットAのうち、消化器（肝胆膵および食道胃腸外科）と乳腺疾患の病態、診断、治療を対象とする。カンファレンスでは症例検討会や文献抄読会などを通じて消化器外科全般にわたる知識を習得する。また、乳腺内分泌外科についても併せて実習・講義を行う。 本BSLでは、配属された主治医団とともに診療に参加し、実践的な知識や技術の習得に努める。担当症例については教科書的な知識だけでなく、最新の文献に触れるなどより専門的な知見を徹底的に掘り下げ、レポート発表においてその成果を発表する（質問・要望等あれば主治医、担当医またはBSL担当教員に申し出ること）。 なお、祝日の場合、その日に予定していた実習は適宜他の日に振り分ける。				
到達目標	・ 患者に直接接することにより、医師としての倫理観、態度を身につけることを目標とする。 ・ problem-based learning の方式により自ら課題を抽出して自己学習し、その結果を教				

	員や担当医に確認する。 ・ 主治医団の一員としてカンファレンス・回診では担当症例以外の患者や疾患に接し、疑問点を抽出することに努め、その疑問をその日のうちに解決するよう心がける。 ・ 外科では担当患者の手術に手洗いをし直接参加するが、担当患者以外の手術でも、できる限り参加させる。希望手術はBSL 担当教員に申し出れば可能な限り配慮する。 ・ 結紮実習では、消化器外科で汎用する糸結びの手技を習得させる。 ・ 診察シミュレーション実習（OSCE 対応）では、実際の診察手技について習得させる。 ・ 腹腔鏡シミュレーター実習では、ドライボックスを用いて結紮や縫合を行い、腹腔鏡手技が実際にどのようなものか体験する。 ・ 消化器癌検体については、個々の臓器に設定された「癌取扱い規約」に従った検体の固定・切り出し法について学習する。
実習評価	・ 評価は、全カリキュラムへの出席を必要条件とする。 ・ 無断欠席・遅刻・早退は不合格の対象とする。やむを得ない事情で欠席・遅刻・早退をする場合は、<u>事前に担当教員に届け出る</u>こと。 ・ レポート提出は必須で、評価については以下の項目と出席およびレポート評価等を総合的に判断し公平に評価を行う。 1. 配属患者との意志疎通は円滑であったか。 2. 配属症例の病態の把握とその報告が適切にできたか。 3. 配属症例の病態から適切に問題を抽出し、その解決が出来たか。 4. 配属症例の診断と治療の場において、積極的に参加したか。
科目別試験	試験は基本的に客観式および記述式で行う。 （消化器2：食道胃腸外科学／消化器3：肝胆膵外科学）
オリエンテーション	約1時間（5年次BSLガイドを必ず持参） ＜食道胃腸外科、肝胆膵外科、乳腺内分泌外科＞ グループA：原則ユニットA第2週の金曜日午後4時、肝胆膵外科医局に集合 グループB：原則ユニットA開始前週（ユニットI最終日）の金曜日午後4時、肝胆膵外科医局に集合 <u>グループ、A,Bともに必ず前日までに肝胆膵外科・田中（PHS73113）まで連絡し、集合時間の最終確認をとること）</u> ☆ 食道胃腸外科に配属された学生は、上記に引き続きにオリエンテーションを行う。
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットB
サブユニット名	整形（整形外科）／リハ（リハビリテーション科）
B S L 担当教員／ 連絡先	河本旭哉（連絡先：医局／内線 5985, PHS 73612） 乾 敦幸（連絡先：医局／内線 5985, PHS 73610）
実習担当教員	外科系講座 整形外科学分野 黒田 良祐 教授 外科系講座 整形外科学分野 西田 康太郎 准教授 外科系講座 整形外科学分野 新倉 隆宏 講師 外科系講座 整形外科学分野 松本 知之 講師 外科系講座 整形外科学分野 河本 旭哉 特命講師 外科系講座 整形外科学分野 松下 雄彦 特命講師 外科系講座 整形外科学分野 角谷 賢一朗 助教 外科系講座 整形外科学分野 林 申也 助教 外科系講座 整形外科学分野 星野 雄一 助教 外科系講座 整形外科学分野 大江 啓介 助教 外科系講座 整形外科学分野 原 仁美 助教 外科系講座 整形外科学分野 美船 泰 助教 外科系講座 整形外科学分野 神崎 至幸 特命助教 外科系講座 整形外科学分野 乾 淳幸 特命助教 外科系講座 整形外科学分野 高山 孝治 特命助教 外科系講座 整形外科学分野 由留部 崇 特定助教 外科系講座 リハビリテーション機能回復学分野 酒井 良忠 特命教授 外科系講座 リハビリテーション機能回復学分野 橋本 慎吾 特命助教 保健学研究科 リハビリテーション科学 秋末 敏宏 教授 保健学研究科 リハビリテーション科学 三浦 靖史 准教授 兵庫県立リハビリテーション中央病院リハビリテーション科 陳 隆明（神戸大学大学院客員准教授） 兵庫県立こども病院整形外科部長 薩摩 真一（神戸大学医学部臨床教授） 整形外科部長 小林 大介（神戸大学医学部臨床准教授）
実習概要	整形外科は、骨・関節・筋肉・神経など運動器官における疾病や外傷を対象として、その病態解明と治療法の開発および診療を行う専門領域です。先天異常を中心とした小児整形外科、高齢者の変性疾患、腫瘍、関節リウマチなどの炎症性疾患、スポーツ傷害、災害や外傷、リハビリテーションにいたるまで広範囲にわたります。ベッドサイドでの診察や手術見学、学外の施設での実習などに積極的に参加することにより、各疾患の病態と診断法を的確に把握し、治療の適応や治療法の決定、予後などについて理解することを目標とします。
到達目標	1) 運動器系の正常構造と機能と理解 ・骨・軟骨・関節・靱帯の構成と機能 ・脊柱の構成と機能 ・骨・関節の基礎

	2) 筋骨格系の病態に即した診察法の理解と習得 ・医療面接 ・四肢・脊柱の可動域検査，神経学的検査 3) 筋骨格系の画像診断の理解 ・X線，CT，MRI など 4) 運動器疾患における主な症候の理解 ・運動麻痺・筋力低下 ・関節痛・関節腫脹 ・腰背部痛 5) 各疾患における診断と理解（グループ講義による） ・一般的疾患（骨折・脱臼，スポーツ傷害，関節症，脊椎変性疾患など） ・感染性疾患（化膿性関節炎，椎間板炎など） ・腫瘍性疾患（原発性骨軟部腫瘍，転移性骨腫瘍，腫瘍類似疾患など） 6) 保存的治療法の理解と取得（ギプス包帯固定法、リハビリテーションなど） 7) 観血的治療法の理解（手術見学および整形外科手術手技実習による）
実習評価	実習に対する取り組みや積極的な参加などの実習態度を重要視し，担当した症例のレポートと口頭試問などによって評価を行います。
科目別試験	試験は記述式と客観式を含む混合式記述で行う。
オリエンテーション	第1週日月曜 8:45 に整形外科外来ポリクリ室に集合
服装に関する留意事項	学生といえども，患者さんと接するので，医師として常識的な服装に心がけ，実習に積極的に参加してください（男性はネクタイに白衣あるいはケーシー型白衣やスクラブを着用する，などです）。

ユニット	ユニットB
サブユニット名	神経2（脳神経外科）
BSL担当教員 ／連絡先	田中 一寛 連絡先： 医局／内線5966, PHS 73711
実習担当教員	外科系講座 脳神経外科学分野 甲村 英二 教授 外科系講座 脳神経外科学分野 谷口 理章 准教授 外科系講座 脳神経外科学分野 篠山 隆司 講師 外科系講座 脳神経外科学分野 藤田 敦史 講師 外科系講座 脳神経外科学分野 木村 英仁 助教 外科系講座 脳神経外科学分野 田中 一寛 助教 外科系講座 脳神経外科学分野 甲田 将章 助教 外科系講座 脳神経外科学分野 中井 友昭 助教 外科系講座 脳神経外科学分野 石井 大嗣 特定助教 外科系講座 脳神経外科学分野 山本 大輔 特定助教
実習概要	神経2（脳神経外科）サブユニットでは、第一に神経学的診断の実技について、総括的に実習することを重視する。具体的には、外来実習及び病棟実習で担当する症例の診察を通じて、病歴からいかにして責任病巣を絞れるか、神経学的診察によりその責任病巣を推定できるか、さらに各種の補助検査で正しくその診断を確認できるか、という過程を学習する。第二に臨床講義・症例学習などを通じて4年次チュートリアルに含まれなかった各論を学ぶ。第三に脳血管撮影・脳外科手術・筋電図検査の実際を見学することにより、診断に役立つ臨床解剖学や電気生理学的知識を身に付ける。これら臨床例をもとにして、一般医として必須の「緊急性を有する神経疾患の基本的マネジメント」について理解習得する。なお、実習前にチュートリアルで学習した内容を復習しておくこと（BSLの評価項目としても考慮する予定）。
到達目標	1) 正常神経組織の生理機能についての知識を有する 2) 標準的な神経学的所見の診察が可能である 3) 脳血管障害の典型的な臨床的特徴や画像所見を知っている 4) 主な脳腫瘍の典型的な臨床的特徴や画像所見を知っている 5) 頭部外傷の典型的な臨床的特徴や画像所見を知っている 6) 機能脳神経外科について最低限の知識を有する
実習評価	評価は実習・講義など全カリキュラムへの出席とレポート提出を最低条件とする。無断欠席、遅刻は落第の対象となる。また、以下の観点から、配属患者の担当医の意見も参考にして、評価を行う。 ・配属患者との意志疎通は円滑であったか。 ・配属症例の病態の把握とその報告が適切に出来たか。 ・配属症例の病態から適切に問題を抽出し、その解決が出来たか。 ・配属症例の診断と治療の場に積極的に参加したか。 ・コメディカルと良好な関係を築けたか。
科目別試験	複数の選択肢より正しいものを選ぶ形式（いわゆるマルチプルチョイス方式）で試験を行う。
オリエンテーション	月曜9:00 脳神経外科医局 原則として木村英仁（助教）が行う。 なお、月曜が祝日の場合は事前に担当教員まで連絡・確認のこと。
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットB
サブユニット名	口腔(歯科口腔外科)
B S L 担当教員 ／連絡先	寛康正 (連絡先：医局／内線 6213, PHS 74632)
実習担当教員	外科系講座 口腔外科学分野 古森 孝英 教授 外科系講座 口腔外科学分野 古土井 春吾 准教授 外科系講座 口腔外科学分野 南川 勉 講師 外科系講座 口腔外科学分野 鈴木 泰明 講師 外科学講座 口腔外科学分野 明石 昌也 助教 外科学講座 口腔外科学分野 長谷川 巧実 助教 外科系講座 口腔外科学分野 寛 康正 特命助教
実習概要	手術見学、外来・病棟・歯科技工見学、歯牙模型実習、ブラッシング実習、歯科診察相互実習、画像診断、各分野の講義 詳細は別紙参照（変更の可能性あり）
到達目標	下記項目の知識習得 1) 口腔の解剖 2) 味覚の仕組みと伝道路と味覚検査 3) 歯科疾患と口腔外科疾患 4) 口腔外科疾患(口腔癌を含む)の病因、診断および治療 5) 歯科疾患(う蝕、歯周疾患)とその全身への影響や口腔機能管理
実習評価	1) 出席状況と実習態度・積極性 2) レポートの内容 3) 主治医・指導医による評価
科目別試験	試験は選択問題形式とする。(論述式ではない) 試験範囲はB S L 実習・見学・講義で説明した内容から出題する。
オリエンテーション	水曜日 8:45 に手術室入口のカンファレンス室前に集合
服装に関する留意事項	別途策定の標準的な服装とする。

ユニット	ユニットC
サブユニット名	救急（救命救急科）・小児外科
BSL 担当教員 ／連絡先	山田 克己（連絡先：医局／内線 6521、PHS 74702） 尾藤 祐子（連絡先：小児外科医局 内線 5942、PHS 73500）
実習担当教員	外科系講座 災害・救急医学分野 小谷 穰治 教授 外科系講座 災害・救急医学分野 西山 隆 特命教授 外科系講座 災害・救急医学分野 前田 裕仁 准教授 外科系講座 災害・救急医学分野 山田 克己 特命准教授 外科系講座 災害・救急医学分野 田邊 里織 助教 外科系講座 災害・救急医学分野 安藤 維洋 特定助教 外科学講座 小児外科学分野 尾藤 祐子 特命准教授 外科学講座 小児外科学分野 大片 祐一 講師
実習概要	救命救急科のBSLでは、診療上の問題点を抽出し解決していくという、臨床医として重要な医学的思考方法や技術の修得を目指す。救急外来診療では重症度と緊急性を考慮した迅速で適切な診断や治療の理解を目標とする。 講義および実習については、救急外来での初期対応、及び重症患者に対する集中治療において必要な医学的知識・考え方や処置・治療法に関する内容である。特に医師となるうえで必須である心肺停止(CPA)患者に対する救命措置(BLS、ICLS)や、JATECTMに基づく外傷初期診療、熱傷・中毒・ショックなどの救急医療に特徴的な病態の診療に対する理解を深める。 実習期間中はカンファレンスや回診に参加し、スタッフや研修医と共に実際の診療に携わり、厚生労働省の定める実習項目(学生が行ってよい医療行為)に積極的に取り組む。 レポート作成については1人の患者を担当し、レポート発表を行う。レポートはBSLでの学習や経験が十分反映する内容で、関連する最新文献を引用して作成する。 また、阪神・淡路大震災、東日本大震災等の経験を踏まえて、災害医療についても学習する。 小児外科学は新生児から思春期までの患児を対象とする学問である。実習は外科学講座小児外科学分野が担当する。小児は常に成長・発達過程にある。実習では、それぞれの年齢における特有の生理的状态と成長・発達に伴う変化および疾患の病態を理解した上で、小児患者に対する外科手術治療の理解を目指す。スタイルは参加型実習とする。病棟や外来では小児期に特有な疾患に対する診断や管理の方法を学び、診察手技や患児と接する態度について習得する。また、実際の手術を手洗いにて術野に参加して見学し、小児患者特有の術式の選択、手技について学ぶ。さらに、外科の基本的手技を修得するため、ドライラボにて縫合や結紮・内視鏡外科技術の実習を行う。小児外科における診断、治療、周術期管理についての講義をスライドやビデオを用いて行い、知識を深める。
到達目標	目標内容： ○救急 【総論】 1. 救急医学と救急医療システム (含. 病院前救護体制、メディカルコントロール) 2. 救急診断 (vital signの見方、緊急度と重症度、triage、鑑別診断、緊急検査) 3. 救急・重症患者の症候、病態 (意識障害、循環不全、呼吸不全、多臓器不全など) 4. 救急初期治療 i) 心肺蘇生法 ii) 呼吸・循環の安定化(気道確保、輸液路確保、止血法、創傷処置、体腔穿刺、各種カテーテル挿入法、薬物療法、輸液療法、輸血療法)

	5. 侵襲と生体反応 6. 重症患者管理 (各種機器とモニタリング、呼吸管理、循環管理、体液管理、栄養管理、感染対策) 7. 救急医療と保健・医療・福祉・介護との連携 8. 災害医療 9. チーム医療の実践 【各論】 1. 外傷 (外傷の初期診断と初期治療、外傷後合併症、外傷後感染(破傷風、ガス壊疽など)、頭部・顔面・頸部外傷、胸部外傷、腹部外傷、脊椎外傷、骨盤外傷、四肢外傷、泌尿性器外傷、末梢血管損傷) 2. 内因性重症救急疾患 (中枢神経系救急疾患、呼吸循環系救急疾患、消化器系救急疾患、代謝性救急疾患など) 3. 熱傷(含、化学熱傷、電撃傷) 4. 急性中毒(薬物中毒、農薬中毒、ガス中毒など) 5. 環境異常(熱中症、低体温、凍傷、酸素欠乏症、減圧症) 6. 気道異物、溺水、刺咬傷など 7. 災害医療(災害について、災害医療と救急医療の相違点(医療救援など)、地域の災害医療体制、CSCATTTと3T、トリアージタグの記入方法、災害時の救急処置、災害特有の病態(挫滅症候群、Confined Space Medicineなど)、災害拠点病院について、災害による精神的障害(PTSDなど)と心のケア) ○小児外科 新生児から思春期までの成長・発達とその異常の特徴および精神・社会的な問題を理解する。 1) 新生児の生理的特徴を説明できる。 2) 緊急を要する新生児疾患を概説できる。 3) 新生児・小児の全身診察ができる(発達状況の評価も含む)。 4) 乳幼児の生理機能の発達を説明できる。 5) 小児の栄養上の問題点を列挙できる。 6) 成長に関わる主な異常を列挙できる。 7) 小児の診断法と治療法における特徴を概説できる。 8) 小児の呼吸器系疾患の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。 9) 小児の消化器疾患の病態、症候、診断、治療と予後を説明できる。 10) 新生児・小児疾患に対する外科的な対応を説明できる。
実習評価	出席状況、実習態度(問題解決能力、積極性、協調性、コミュニケーション能力)、症例レポート及び発表等での総合評価を行う。
科目別試験	当科BSLの到達目標・実習内容に準拠した筆記試験(マルチプルチョイス式)を行う。
オリエンテーション	(救急)BSL初日午前8時に外来診療棟4階 救急部カンファレンス室に集合のこと。 (小児外科)Aグループ第1週・Bグループ第3週の火曜日午前9時に、4南病棟カンファレンス室に集合のこと。
服装に関する留意事項	(救急)スクラブ着用 (小児外科)白衣あるいはスクラブ着用

ユニット	ユニットC
サブユニット名	総合内科
BSL担当教員 ／連絡先	森 寛行 ／ 医局：内線 6596 、PHS 71017
実習担当教員	内科学講座 総合内科学分野 坂口 一彦 准教授 内科学講座 総合内科学分野 乙井 一典 特定助教 内科学講座 総合内科学分野 森 健太 特定助教 地域社会医学・健康科学講座 総合臨床教育・育成学分野 森 寛行 助教
実習概要	総合内科 BSL の 2 週間では、皆さんは病棟主治医団に配属され、その主治医団と行動を共にすることで入院患者さんから学ぶ診療参加型の BSL を行っていただきます。主治医団の一員として積極的なチーム医療への参加を期待しています。 入院患者さんを実際に診察し主治医団と治療方針を議論し、その過程をカルテに記録しカンファレンスでプレゼンテーションすることによって、実践の場で臨床医学を学びます。 外来初診患者さんの医療面接を行い外来担当医に報告することで外来医療を学びます。 その他のカリキュラム ・ 医療面談 SP さんに協力いただき実習に先立って医療面談のトレーニングとフィードバックを行います。 ・ 診療所・クリニック実習 開業されている先生方のもとへ一日出向き、大学病院では経験できないプライマリケアの実際を学びます。 ・ 患者支援センター合同カンファレンス
到達目標	<診療の基本に関する目標> 一般目標：受持ち患者の情報を収集し、診断、治療計画を立てることを学ぶ。 【問題志向型システム・科学的根拠にもとづいた医療】 到達目標： 1) 基本的診療知識にもとづき、情報を収集・分析できる。 2) 得られた情報をもとに、問題点を抽出できる。 3) 病歴と身体所見等の情報を統合して、鑑別診断ができる。 4) 診断・治療計画を立てられる。 5) 科学的根拠にもとづいた医療（EBM）を実践できる。 【医療面接】 到達目標： 1) 礼儀正しく患者（家族）に接することができる。 2) プライバシーへの配慮し、患者（家族）との信頼関係を形成できる。 3) 医療面接における基本的コミュニケーション技法を実践できる。 4) 病歴聴取（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を実施できる。

【診療記録とプレゼンテーション】

到達目標：

- 1) 診療録を POMR 形式で記載できる。
- 2) 毎日の所見と治療方針を SOAP 形式で記載できる。
- 3) 受持ち患者の情報を診療チームに簡潔にプレゼンテーションできる。
- 4) 自分の学んだことを、他の医療従事者にまとめて簡潔にプレゼンテーションできる。

【チーム医療】到達目標：

- 1) 医療チームの一員として他の医療従事者と良好なコミュニケーションをとることができる。
- 2) 医療チームの一員として、積極的に医療に参加できる。
- 3) 保健、医療、福祉と介護のチーム連携における医師の役割を説明できる。
- 4) 地域の保健、医療、福祉と介護活動とそのネットワークの状況を説明できる。

<身体診察に関する目標>

一般目標：受け持ち患者の基本的な身体診察ができる。

【全身状態とバイタルサイン】到達目標：

- 1) 血圧・脈拍を測定できる。
- 2) 呼吸数を測定し、呼吸パターンを観察できる。

【頭頸部】到達目標：

- 1) 頭部の診察ができる。
- 2) 眼（視野、瞳孔、眼球運動、結膜）の診察ができる。
- 3) 口腔・鼻腔の診察ができる。
- 4) 甲状腺を含めた頸部の診察ができる。

【胸部】到達目標：

- 1) 胸部の視診、打診、触診、聴診ができる。
- 2) 呼吸音を正しく聴診できる。
- 3) 心音と心雑音を正しく聴診できる。

【腹部と泌尿生殖器】到達目標：

- 1) 腹部の視診、聴診、打診と触診ができる。
- 2) 直腸（前立腺を含む）指診ができる。

【神経】到達目標：

- 1) 意識状態が判定できる。
- 2) 脳神経を診察できる。
- 3) 腱反射、病的反射、筋トーンスを診察できる。
- 4) 小脳・運動機能を診察できる。
- 5) 感覚系の診察ができる。
- 6) 髄膜刺激所見がとれる。

【四肢と脊柱】到達目標：

- 1) 四肢と脊柱を診察できる。
- 2) 関節（関節可動域を含む）を診察できる。
- 3) 筋骨格系の診察ができる。

	<基本的臨床手技に関する目標> 一般目標：基本的臨床手技を学ぶ。 【基本手技】到達目標： 1) 静脈採血の手順、部位と合併症を列挙し、正しく採血できる。 2) 末梢静脈の血管確保を見学し、介助ができる。 <基本的内科疾患に関する目標> 一般目標：基本的内科疾患を受け持ち、病態、症候、診断、治療と予後を学ぶ。 到達目標： 1) 主要な疾患に関して、症候や検査結果から、診断と治療のための計画を立案し実施に参加できる 2) 他科へのコンサルテーションが必要かどうか判断できる。 3) 複数の疾患、問題をかかえる患者を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。 4) 患者の社会的背景や倫理的課題などの個別な問題を視野にいれた治療計画の立案・実施に参加できる。
実習評価	出席状況は重視され無断欠席は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、担当教員に理由を明記した書面をあらかじめ提出、あるいは急な理由により欠席する場合は、遅滞なく直接担当教員に連絡を取り、その後についての指示を受けてください。 レポートの作成は不要です。 以下の項目を重点的に評価し、フィードバックを行います。 共通評価項目 ・医療面接/身体診察/診療記録/症例の理解/症例プレゼンテーション ・コミュニケーション力/診療態度、責任感/自己学習態度 科別評価項目 ・チームの一員としての役割を果たせたか ・ミニレクチャーとプレゼン ・医療倫理課題の認識と考察 ・社会制度の理解活用” ・（症例応じて）ポータブルエコーの活用
科目別試験	試験は混合式（多肢選択式＋記述式）で行います。医療面接、身体診察、EBM といった内科の Basic な内容で出題します。
オリエンテーション	初日は午前 8 時に病棟 6 階のカンファ室に集合してください。 月曜が祝日の場合は火曜 8 時に病棟 6 階のカンファ室に集合してください。不明の点があれば前週金曜までに担当教員まで連絡・確認をお願いします。 その他オリエンテーションは初日午前に行います。
服装に関する留意事項	診療所・クリニック実習の際は、男性はスーツでネクタイ着用。女性もそれに準じた失礼のない服装のこと。

ユニット	ユニットC
サブユニット名	臨検（検査部）
BSL担当教員 ／連絡先	笠木 伸平（連絡先：内線 6193 PHS 75036）
実習担当教員	検査部 三枝 淳 講師 検査部 笠木 伸平 特定助教 総合臨床教育センター 河野 誠司 特命教授
実習概要	リバースドCPC、採血実習、医療面接 血液像や検査値の読み方
到達目標	1) 検査提出から結果が出るまでの過程を理解する 2) 採血の手技ができる 3) 尿検査が出来る 4) 血算が出来る 5) 基本的な検査値の読み方が出来る 6) 検査説明ができる
実習評価	1) 出席状況と実習態度
科目別試験	試験は選択問題形式とする。 試験範囲はBSL実習、講義で説明した内容から出題する。
オリエンテーション	月曜日午後1時に検査部管理室に集合。 月曜日が祭日の場合は翌日火曜日の午前10時に検査部管理室に集合すること。
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットD
サブユニット名	免疫（膠原病リウマチ内科）
BSL 担当教員 ／連絡先	大西 輝（連絡先：内線 6197 PHS 71303）
実習担当教員	腎臓・免疫内科学分野 免疫内科学部門 森信 暁雄 准教授 附属病院 膠原病リウマチ内科 大西 輝 助教 附属病院 膠原病リウマチ内科 明石 健吾 特定助教 附属病院 膠原病リウマチ内科 千藤 莊 特定助教 済生会中津病院 膠原病内科 中澤 隆 部長 済生会中津病院 膠原病内科 信原 由実子 副部長
実習概要	サブユニット免疫では、リウマチ・膠原病症例に直接関わることで、問診、診察からの問題点作成、検査計画の立案の実際を学んで下さい。講義はチュートリアルの時よりも臨床的なものにしており、特に臨床症状、検査所見、鑑別診断に重点を置いた内容となっています。
到達目標	1. 担当症例に対して適切な医療面接・身体診察・診療記録を実施すること。 2. 担当症例の病態を把握し、その報告が適切に出来ること。また、適切に問題を抽出し、その解決が出来ること。 3. 担当症例に対する文献的考察ができること。 4. 担当症例に診断と治療の場において、積極的に参加すること。 5. 症例の人格を尊重し、意志疎通が出来ること。 6. コメディカルとの良好な関係を築くことが出来ること。 7. 関節所見を適切にとることが出来ること。
実習評価	評価はカリキュラムへの出席、上記の到達目標の達成率を重視します。事故、病欠等止むを得ない場合には、担当教員および学務課に必ず連絡するとともに証明書（病欠にあたっては医師の診断書）を提出して下さい。実習担当教員による評価、レポート、並びに試問の結果を総合的に判断し、最終評価を行います。
科目別試験	試験は筆答式で行います。4 年次チュートリアルにおける学習到達目標に加えて、BSL の講義内容を出題範囲とします。
オリエンテーション ／学外実習	月曜 8:30 に膠原病リウマチ内科 図書室（外来棟 6 階）に集合。 なお、月曜が祝日の場合は、前週の金曜 17:00 に集合。 （事前に確認の TEL を医局（内線 6197）までお願いします。） 木曜日 14:00 から済生会中津病院にて学外実習を実施
服装に関する留意事項	別途策定する標準的な服装に準ずる

ユニット	ユニットD
サブユニット名	腎（腎臓内科）
B S L 担当教員 ／連絡先	後藤 俊介（連絡先：医局／内線 6 5 0 0、PHS 7 5 4 0 2）
実習担当教員	内科学講座 腎臓内科学分野 西 慎一 教授 内科学講座 腎臓内科学分野 藤井 秀毅 講師 内科学講座 腎臓内科学分野 後藤 俊介 助教 内科学講座 腎臓内科学分野 河野 圭志 助教 内科学講座 腎臓内科学分野 吉川 美喜子 特定助教 内科学講座 腎臓内科学分野 渡邊 周平 特定助教
実習概要	担当症例についての病歴聴取・診察ならびに病態と治療の考察・プレゼンテーション。 実際に味わう食事実習。 各種ミニレクチャー 手術見学・画像診断
到達目標	1) 慢性腎不全（慢性腎臓病（chronic kidney disease（CKD））の病因、症候、診断と治療を説明できる。 2) アシドーシス・アルカローシス（代謝性・呼吸性）の定義、病態生理、診断、治療を説明できる。 3) 慢性腎不全の合併症である腎性貧血、ミネラル代謝異常を概説できる。 4) 腎代替療法（血液透析・腹膜透析・腎移植）を説明できる。 5) 急性糸球体腎炎症候群、慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ奏効群の分類、症候、診断と治療を説明できる。 6) 高血圧による腎障害を概説できる。 7) 腎不全の食事療法について概説できる。
実習評価	出席状況、症例レポートや課題レポートの内容やプレゼンテーション、担当症例に対する対応、各授業での対応などから、身体診察、診療記録、症例の理解、コミュニケーション力、診療態度、責任感、自己学習態度、症例プレゼンテーション、保存期腎不全の管理について説明できるか、透析療法の種類と原理が説明できるか、血ガスの読み方について説明できるか、IgA 腎症とネフローゼ症候群について説明できるか、腎と高血圧について説明できるかななどを評価する。
科目別試験	試験は、多肢選択ならびに記述式の筆記試験を行う。
オリエンテーション	月曜午前 8：30 に第 1 病棟 3F カンファレンスルームに集合。 なお月曜が祝日の場合は火曜午前 8：30 に集合。
服装に関する留意事項	指定なし。

ユニット	ユニットD
サブユニット名	泌尿器（泌尿器科）
B S L 担当教員 ／連絡先	松下 経（連絡先：医局／内線 6 1 5 5，PHS 7 4 0 1 7）
実習担当教員	外科系講座 腎泌尿器科学分野 藤澤 正人 教授 外科系講座 腎泌尿器科学分野 中野 雄造 准教授 外科系講座 腎泌尿器科学分野 日向 信之 特命准教授 外科系講座 腎泌尿器科学分野 石村 武志 特命講師 外科系講座 腎泌尿器科学分野 重村 克巳 病院講師 外科系講座 腎泌尿器科学分野 原田 健一 助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 古川 順也 助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 寺川 智章 助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 千葉 公嗣 助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 松下 経 助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 江夏 徳寿 特定助教 外科系講座 腎泌尿器科学分野 西川 昌友 特定助教

ユニット	ユニットD																																																																								
サブユニット名	放射線（放射線科・放射線腫瘍科）																																																																								
BSL担当教員／連絡先	前田 隆樹（連絡先：医局／内線6104, PHS 72211）																																																																								
実習担当教員	<table><tr><td>放射線科</td><td>杉本 幸司</td><td>特命教授</td><td>放射線腫瘍科</td><td>佐々木良平</td><td>特命教授</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>大野 良治</td><td>特命教授</td><td>放射線科</td><td>高橋 哲</td><td>特命教授</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>山口 雅人</td><td>准教授</td><td>放射線腫瘍科</td><td>吉田 賢史</td><td>特命准教授</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>前田 隆樹</td><td>講師</td><td>放射線科</td><td>祖父江慶太郎</td><td>講師</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>野上 宗伸</td><td>特命講師</td><td>放射線科</td><td>吉川 武</td><td>特命講師</td></tr><tr><td>放射線腫瘍科</td><td>宮脇 大輔</td><td>特命講師</td><td>放射線科</td><td>岡田 卓也</td><td>助教</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>神田 知紀</td><td>助教</td><td>放射線科</td><td>小出 裕</td><td>助教</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>上野 嘉子</td><td>助教</td><td>放射線腫瘍科</td><td>石原 武明</td><td>特定助教</td></tr><tr><td>放射線科</td><td>上嶋 英介</td><td>特定助教</td><td>放射線科</td><td>関 紳一郎</td><td>特命助教</td></tr><tr><td>放射線腫瘍科</td><td>上蘭 玄</td><td>特命助教</td><td>放射線腫瘍科</td><td>赤坂 浩亮</td><td>特命助教</td></tr><tr><td>放射線腫瘍科</td><td>犬伏 祥子</td><td>特命助教</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>放射線科</td><td>小西 淳也</td><td>客員准教授</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>	放射線科	杉本 幸司	特命教授	放射線腫瘍科	佐々木良平	特命教授	放射線科	大野 良治	特命教授	放射線科	高橋 哲	特命教授	放射線科	山口 雅人	准教授	放射線腫瘍科	吉田 賢史	特命准教授	放射線科	前田 隆樹	講師	放射線科	祖父江慶太郎	講師	放射線科	野上 宗伸	特命講師	放射線科	吉川 武	特命講師	放射線腫瘍科	宮脇 大輔	特命講師	放射線科	岡田 卓也	助教	放射線科	神田 知紀	助教	放射線科	小出 裕	助教	放射線科	上野 嘉子	助教	放射線腫瘍科	石原 武明	特定助教	放射線科	上嶋 英介	特定助教	放射線科	関 紳一郎	特命助教	放射線腫瘍科	上蘭 玄	特命助教	放射線腫瘍科	赤坂 浩亮	特命助教	放射線腫瘍科	犬伏 祥子	特命助教				放射線科	小西 淳也	客員准教授			
放射線科	杉本 幸司	特命教授	放射線腫瘍科	佐々木良平	特命教授																																																																				
放射線科	大野 良治	特命教授	放射線科	高橋 哲	特命教授																																																																				
放射線科	山口 雅人	准教授	放射線腫瘍科	吉田 賢史	特命准教授																																																																				
放射線科	前田 隆樹	講師	放射線科	祖父江慶太郎	講師																																																																				
放射線科	野上 宗伸	特命講師	放射線科	吉川 武	特命講師																																																																				
放射線腫瘍科	宮脇 大輔	特命講師	放射線科	岡田 卓也	助教																																																																				
放射線科	神田 知紀	助教	放射線科	小出 裕	助教																																																																				
放射線科	上野 嘉子	助教	放射線腫瘍科	石原 武明	特定助教																																																																				
放射線科	上嶋 英介	特定助教	放射線科	関 紳一郎	特命助教																																																																				
放射線腫瘍科	上蘭 玄	特命助教	放射線腫瘍科	赤坂 浩亮	特命助教																																																																				
放射線腫瘍科	犬伏 祥子	特命助教																																																																							
放射線科	小西 淳也	客員准教授																																																																							
実習概要	放射線科では種々の疾患における多くの画像にふれ、放射線診断学および IVR（Interventional Radiology）の基礎を学ぶ。放射線腫瘍科では、癌治療の中の重要な位置を占める放射線治療を中心に腫瘍学の基本についても学ぶ。																																																																								
到達目標	1. 画像上で正常解剖構造を把握する。また、造影効果の有無の判断、異常所見の同定、その成因について理解する。 2. 各領域において、主要疾患の典型的な画像所見を理解する。 3. 放射線治療および IVR 治療の「低侵襲性」を理解する。																																																																								
実習評価	出席状況、症例レポートの内容、指導医の評価により行う。																																																																								
科目別試験	試験は国試形式で行う。画像診断学、IVR、放射線腫瘍学の基礎的および必須事項（詳細はチュートリアルサブユニットの到達目標を参照）より出題する。																																																																								
オリエンテーション	月曜日 AM 9 時 20 分に放射線科医局に集合。医局秘書より 1 週間の BSL 予定表を配布します。月曜日が祝日の場合は、火曜日 AM8 時に病棟 5F カンファレンスルームに集合してください。 なお、週により変更がある場合がありますので、初日に医局秘書より配布される予定表を確認してください。																																																																								
服装に関する留意事項	特になし																																																																								

ユニット	ユニットE
サブユニット名	呼吸器1（呼吸器内科）
B S L 担当教員 ／連絡先	中田 恭介（連絡先：医局／内線5660、PHS 71209）
実習担当教員	内科学講座 呼吸器内科学分野 西村 善博 特命教授 内科学講座 呼吸器内科学分野 小林 和幸 准教授 内科学講座 呼吸器内科学分野 上領 博 講師 内科学講座 呼吸器内科学分野 立原 素子 助教 内科学講座 呼吸器内科学分野 山本 正嗣 特定助教 内科学講座 呼吸器内科学分野 中田 恭介 特定助教 内科学講座 呼吸器内科学分野 永野 達也 特命助教 内科学講座 呼吸器内科学分野 桂田 直子 特命助教
実習概要	2週間で各自1症例を担当し、病歴の聴取、診察手技の実際を学びます。 主治医団とのディスカッションを通じて、臨床における考え方についても学んで下さい。 2週目の木曜日に実習のまとめとして各自担当症例についてPower pointを用いたプレゼンテーションを行ってフィードバックを行います。分からないことがあれば、気軽に担当医、教員に質問して下さい。 聴診シミュレータを用いた実習やミニレクチャーを通じて、より実践的な技術、知識の習得を目指し、最終日には実技に関する試験も予定しています。 新規患者の気管支鏡検査から呼吸器合同カンファレンスへの流れの中で、診断と治療が関連科のスムーズな連携の中で行われている現場を体験して下さい。
到達目標	①マナーと責任のある行動ができ、患者と良好なコミュニケーションがとれる。 ②適切な病歴聴取ができる。 ③系統的な身体所見がとれる。 ④各種検査所見を理解できる。 ⑤症例の問題点を抽出し整理できる。 ⑥症例のプレゼンテーションができる。 ⑦日常臨床でしばしば遭遇する呼吸器疾患（喘息・COPD、肺炎、抗酸菌感染症、間質性肺炎、肺癌など）の病態を理解し、診察手技や治療計画ができる。
実習評価	出席が前提です。上記到達目標が達成できたか、積極的に取り組んでいたかを日々のディスカッションや症例のプレゼンテーション、実技試験、口頭試問、実習評価表を使用して総合的に評価します。
科目別試験	試験は選択問題（マルチプルチョイス）と記述問題からなり、呼吸器内科領域全般から出題されます。
オリエンテーション	月曜日午前9時過ぎからオリエンテーションを行います。呼吸器外科のオリエンテーションが終わったら、6階北病棟に集合してください。
服装に関する留意事項	別途策定の標準的な服装から逸脱しないこと。

ユニット	ユニットE
サブユニット名	呼吸器2（呼吸器外科）
BSL担当教員 ／連絡先	外科学講座 呼吸器外科学分野 土井 健史 助教 （連絡先：内線 5750 PHS 73409）
実習担当教員	外科学講座 呼吸器外科学分野 真庭 謙昌 教授 外科学講座 呼吸器外科学分野 田中 雄悟 特命准教授 外科学講座 呼吸器外科学分野 法華 大助 特命講師 外科学講座 呼吸器外科学分野 土井 健史 助教 外科学講座 呼吸器外科学分野 岡本 武士 助教 外科学講座 呼吸器外科学分野 清水 奈保子 特定助教
実習概要	当科BSLは、呼吸器内科と合同で行う。オリエンテーション時に各自1症例が割り当てられる。担当症例において、術前評価、手術見学、術後管理のすべてにわたって研修医と同等に診療に参加してもらう。術前の病態、胸部の診察法の原則と視診、打診、聴診、触診の実際を、呼吸器疾患について訓練する。担当症例の手術見学を行い、胸腔内の解剖について理解を深めてもらう。手術翌日には、ICUにて術後管理（胸腔ドレーンの管理法、血液ガス検査、輸液管理）について学んでもらう。また2週間の実習期間中に、呼吸器外科でよく扱われる疾患（肺癌、気胸・膿胸、縦隔腫瘍）に関するミニレクチャーを行い、それらの疾患の理解を深めてもらう。最終日には担当症例について、術前評価、手術内容、術後経過、今後の治療方針等について、プレゼンテーションをしてもらう。
到達目標	1) 患者とのコミュニケーション、問診をはじめとした診察方法の習得。 2) 疾患の病態生理、術前評価、手術、術後管理について症例のプレゼンテーションができる。 3) 胸腔ドレーンの管理における、エアリークの見方、胸水の性状の評価、ドレーン抜去の基準について説明できる。 4) 胸腔内の解剖について、説明できる。 5) 呼吸器外科手術後の退院の適応について説明できる。 6) 呼吸器外科でよく扱われる疾患（肺癌・気胸・膿胸・縦隔腫瘍・悪性胸膜中皮腫）について、病態とその治療法について説明できる。
実習評価	出席が前提である。実習であるので、一定の出席率に達しないものは不合格とする。出席以外の評価項目は、担当症例の発表、症例レポートなどでの到達度と、主治医団のなかでの熱意、患者さんに対する接し方、他の医療スタッフとの関係、診察手技の習熟、胸腔内の解剖の理解、術後状態の把握、胸腔ドレーン管理の理解、最後の実習評価における実習成果の評価により行う。
科目別試験	試験は選択問題及び記述問題で行う。BSLで講義した内容を中心とし、診断から手術方法まであらゆる呼吸器外科領域を含む。
オリエンテーション	オリエンテーション：月曜8:30に研究棟A1F呼吸器外科医局に全員揃って集合。なお、月曜が祝日の場合はBSL前週金曜日午前中までに担当教員もしくは医局まで連絡・確認のこと。
服装に関する留意事項	指定なし。

ユニット	ユニット E
サブユニット名	糖尿病・内分泌（糖尿病・内分泌内科）
BSL 担当教員 ／連絡先	廣田 勇士 （連絡先：糖尿病・内分泌内科医局／内線 5861, PHS71606）
実習担当教員	内科学講座 糖尿病・内分泌内科学分野 小川 渉 教授 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学分野 高橋 裕 准教授 神戸大学医学部附属病院 糖尿病内分泌内科 井口 元三 講師 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学分野 細岡 哲也 助教 神戸大学医学部附属病院 糖尿病内分泌内科 廣田 勇士 助教 内科学講座 糖尿病・内分泌内科学分野 浅原 俊一郎 特命助教 神戸大学医学部附属病院 糖尿病内分泌内科 福岡 秀規 助教 神戸大学医学部附属病院 糖尿病内分泌内科 岡田 裕子 助教
実習概要	本サブユニットでは、ベッドサイドでの診療に実際に参加することによって、担当症例の診断・病態・治療について学ぶ。一方、症例カンファレンスでは、受け持ち以外の患者についても問題点を抽出し、これを解決するための議論に参加する。さらに、臨床に即した講義や実症例を題材とするケーススタディを通じて、糖尿病および内分泌疾患の病態生理の捉えかたを学ぶとともに、それらの診断から治療につながる一連のプロセスを系統的に理解し習得する。
到達目標	1) 患者とのコミュニケーションを円滑に行うことができる。 2) 病歴および現症から担当症例の病態を正しく理解することができる。 3) 担当症例の病態から問題点を抽出し、それを解決することができる。 4) 糖尿病・代謝・内分泌領域の代表疾患に関する基本的知識を身につける。 5) ホルモンの過剰または欠乏がもたらす身体症状を説明できる。 6) 糖尿病の病因、病態生理、分類、症候と診断を説明できる。
実習評価	担当患者の生活環境など患者背景、鑑別診断、診断名、病態、治療方針、退院後の治療における課題などを、実習期間中に把握しまとめる。 また、全カリキュラムへの出席状況、実習態度、報告会でのプレゼンテーションも含めて、担当症例の主治医と指導医、教務担当教員が協議の上、判定する。
科目別試験	試験は客観式で行う。臨床医学講義における学習内容に加えて、BSL の講義内容を出题範囲とする。
オリエンテーション	月曜日の 8 時 30 分に糖尿病・内分泌内科医局に集合。なお、月曜が祝祭日の場合には、火曜日の同時刻に同場所にて行う。
服装に関する留意事項	標準的な服装で実習に参加する。

ユニット	ユニットE
サブユニット名	感染（感染症内科）
B S L 担当教員 ／連絡先	岩田 健太郎 / PHS 72151 or 医局 6297
実習担当教員	微生物感染症学講座 感染治療学分野 岩田 健太郎 教授 微生物感染症学講座 感染治療学分野 大路 剛 准教授
実習概要	感染症の診断プロセス、治療の原理・原則、治療効果の判定などの原則を学ぶ。また血圧低下、酸素化低下、発熱などの鑑別疾患を適切に上げ、対処を考えることができるようにする
到達目標	1) 感染症診断の原理・原則、アプローチを理解する 各病原微生物、感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。 感染臓器を想定し適切な培養検体を採取できる。 各感染症診断に必要な抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査など、特異的な検査の感度・特異度を含めた結果の解釈と説明ができる 2) 抗菌薬使用の原理・原則を理解する。 病原微生物及び感染臓器毎の適切な抗微生物薬を説明できる。 3) 感染症治療、治療効果判定を理解する。 抗菌薬以外の感染巣コントロール（人工物の抜去やデブリードマン、ドレナージなど）の適応を理解する。炎症反応などの非特異的なマーカーではなく、臓器特異的なマーカーでの治療効果判定ができる。 4) 院内発熱患者を適切にワークアップする。 感染症に限らず、薬剤熱や自己免疫性疾患、結晶性関節炎など非感染症による発熱も鑑別に挙げ、鑑別診断の重みづけを行ったうえで必要な検査、適切な経過観察ができる。 5) 院内感染管理、耐性菌に対する対応を理解する。 標準予防策を理解し実施することができる。 感染経路別予防策が必要となる病原微生物の説明ができる。 6) 各論として真菌感染症、寄生虫感染症、性感染症のアプローチを理解する。 各感染症の原因微生物の説明ができる。 各疾患の診断と治療を説明できる。
実習評価	出席状況、実習中の態度や学習のあり方で総合的に判定。発表やレポートを適宜課す。
科目別試験	口頭試問を予定
オリエンテーション	月曜 7 時 3 0 分に感染症内科医局集合。祝日の場合は火曜の同時刻。
服装に関する留意事項	特に指定なし

ユニット	ユニットF																																																				
サブユニット名	生殖・周産期（産科婦人科学）																																																				
BSL担当教員／連絡先	上中 美月（連絡先：医局／内線 6005, PHS 74126）																																																				
実習担当教員	<table><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>山田 秀人</td><td>教授</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>蝦名 康彦</td><td>准教授</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>出口 雅士</td><td>特命教授</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>宮原 義也</td><td>講師</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>森實 真由美</td><td>講師</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>谷村 憲司</td><td>講師</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>若橋 宣</td><td>助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>鈴木 嘉穂</td><td>助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>今福 仁美</td><td>特命助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>白川 得朗</td><td>特定助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>上中 美月</td><td>特命助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>長又 哲史</td><td>特定助教</td></tr><tr><td>外科系講座</td><td>産科婦人科学分野</td><td>笹川 勇樹</td><td>特定助教</td></tr></table>	外科系講座	産科婦人科学分野	山田 秀人	教授	外科系講座	産科婦人科学分野	蝦名 康彦	准教授	外科系講座	産科婦人科学分野	出口 雅士	特命教授	外科系講座	産科婦人科学分野	宮原 義也	講師	外科系講座	産科婦人科学分野	森實 真由美	講師	外科系講座	産科婦人科学分野	谷村 憲司	講師	外科系講座	産科婦人科学分野	若橋 宣	助教	外科系講座	産科婦人科学分野	鈴木 嘉穂	助教	外科系講座	産科婦人科学分野	今福 仁美	特命助教	外科系講座	産科婦人科学分野	白川 得朗	特定助教	外科系講座	産科婦人科学分野	上中 美月	特命助教	外科系講座	産科婦人科学分野	長又 哲史	特定助教	外科系講座	産科婦人科学分野	笹川 勇樹	特定助教
外科系講座	産科婦人科学分野	山田 秀人	教授																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	蝦名 康彦	准教授																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	出口 雅士	特命教授																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	宮原 義也	講師																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	森實 真由美	講師																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	谷村 憲司	講師																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	若橋 宣	助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	鈴木 嘉穂	助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	今福 仁美	特命助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	白川 得朗	特定助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	上中 美月	特命助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	長又 哲史	特定助教																																																		
外科系講座	産科婦人科学分野	笹川 勇樹	特定助教																																																		
実習概要	産科婦人科学は基本的に生殖現象そのものと、それに関わる臓器の疾患を対象とする学問である。チュートリアル等により、習得した知識を基にして患者実在の場である病棟・外来・手術室・分娩室において実習を行うことにより、系統的な理解を深めることを目標とする。基本的産科婦人科疾患を受け持ち、女性の健康問題、疫学、予防、病態、診断、治療と予後を学ぶ。産科婦人科学では対象が女性であり、その生殖器を通して患者に接するため、学生においては男性女性にかかわらず、ことさら真摯な態度と患者の立場をおもんばかりの気持ちが求められる。 <u>産婦人科は、実習中（特に患者さんに対して）不適切な態度の学生は、不適切と判断されたその時点から実習参加資格を与えない。BSL実習点（40点）はすべて0点とし、以後実習参加は不要である。</u> 患者の立場に立って実習に参加するように、強く願う。 婦人科 ・ 婦人科疾患患者を各自1名担当し、担当医や教員の指導のもと手術に手洗いで立ち会い、診察・検査・診断・治療などについて研修する。またそのレポートを作成する。 産科 ・ 産科疾患患者を各自1名担当し、担当医や教員の指導のもと診察、検査、診断、治療について研修し、<u>学生自身で胎児超音波検査を施行してもらう</u>。またそのレポートを作成する。 ・ <u>指定日はPHSを常時携帯し、同日中の母体搬送・緊急手術・分娩などに参加する。</u> ・ 外来胎児超音波検査の見学で、胎児評価の研修を行う。 外来 ・ 初診外来患者に<u>学生自身が問診を行い</u>、教員とともに診断のすすめ方、治療方針、インフォームドコンセントの取り方などをディスカッションする。また、産科・婦人科に分かれ実際の外来の進め方や診察を見学する。																																																				

到達目標	1) 正常の妊娠、出産と産褥の基本的な管理についての知識を習得する。 2) 下記の主な疾患、症候や病態を診察し、診断と治療計画の立案・実施に参加できる。 症例：【産科】正常妊娠・分娩・産褥 流産・不育症 早産 異常妊娠、異常分娩 妊娠高血圧症 【婦人科】子宮・卵巣の腫瘍 骨盤内炎症性疾患 性行為感染症 子宮内膜症 子宮筋腫 更年期障害・不正性器出血 月経異常 不妊症 避妊指導
実習評価	学生はそれぞれ産科・婦人科1症例ずつ計2例を担当し、2週目の金曜日に担当症例についてまとめたレポートを提出する。また、各自産婦人科疾患について調べたことを、パワーポイントを用いて発表してもらう。成績は実習態度やレポート・試問により総合的に評価する。 <u>実習中無届欠席およびPHS担当日に連絡がつかないなどは厳禁である。</u> 【主な評価項目】 共通評価項目（医療面接、身体診察、診療記録、症例の理解、コミュニケーション力、診療態度・責任感、自己学習態度、症例プレゼンテーション）に加え、診療科評価項目として下記についても評価する。 1) 女性生殖器の発生、解剖、生理、病理を理解し、診察ができる 2) 分娩機転を理解し、正常分娩の介助ができる 3) 超音波検査で胎位や胎児発育の評価ができる 4) 担当患者の術式が説明できる 5) 担当患者の治療・投薬の根拠について述べることができる
科目別試験	試験は筆答（客観式）。産科婦人科についての基本的な知識を問う。
オリエンテーション	初日の月曜日午前9時15分に母子センター病棟入口前ロビーに集合。 （産婦人科婦人科外来の前ではないので注意） <u>※月曜が祝日の場合は火曜日が手術日であるため、前週の金曜日にオリエンテーションを行う。代表者が産科婦人科学医局（内線：6005）に集合時間、場所を問い合わせること。</u>
服装に関する留意事項	標準的な服装

ユニット	ユニットF																																						
サブユニット名	発達（小児科）																																						
B S L 担当教員 ／連絡先	西山 将広 （連絡先：小児科医局／内線 6090, PHS 72422）																																						
実習担当教員	内科系講座 小児科学分野 <table> <tr><td>飯島 一誠</td><td>教授</td></tr> <tr><td>野津 寛大</td><td>准教授</td></tr> <tr><td>永瀬 裕朗</td><td>講師</td></tr> <tr><td>藤岡 一路</td><td>講師</td></tr> <tr><td>貝藤 裕史</td><td>助教</td></tr> <tr><td>栗野 宏之</td><td>助教</td></tr> <tr><td>西山 将広</td><td>助教</td></tr> <tr><td>山名 啓司</td><td>助教</td></tr> <tr><td>山村 智彦</td><td>特定助教</td></tr> <tr><td>南川 将吾</td><td>特定助教</td></tr> <tr><td>坊 亮輔</td><td>特定助教</td></tr> </table> 内科系講座 小児科学分野・こども急性疾患学部門 <table> <tr><td>森岡 一朗</td><td>特命教授</td></tr> <tr><td>池田 真理子</td><td>特命准教授</td></tr> <tr><td>森 健</td><td>特命講師</td></tr> <tr><td>富岡 和美</td><td>特命助教</td></tr> <tr><td>中西 啓太</td><td>特命助教</td></tr> <tr><td>藤村 順也</td><td>特命助教</td></tr> </table> 内科系講座 小児科学分野・こども総合療育学部門 <table> <tr><td>西村 範行</td><td>特命教授</td></tr> <tr><td>前山 花織</td><td>特命助教</td></tr> </table>	飯島 一誠	教授	野津 寛大	准教授	永瀬 裕朗	講師	藤岡 一路	講師	貝藤 裕史	助教	栗野 宏之	助教	西山 将広	助教	山名 啓司	助教	山村 智彦	特定助教	南川 将吾	特定助教	坊 亮輔	特定助教	森岡 一朗	特命教授	池田 真理子	特命准教授	森 健	特命講師	富岡 和美	特命助教	中西 啓太	特命助教	藤村 順也	特命助教	西村 範行	特命教授	前山 花織	特命助教
飯島 一誠	教授																																						
野津 寛大	准教授																																						
永瀬 裕朗	講師																																						
藤岡 一路	講師																																						
貝藤 裕史	助教																																						
栗野 宏之	助教																																						
西山 将広	助教																																						
山名 啓司	助教																																						
山村 智彦	特定助教																																						
南川 将吾	特定助教																																						
坊 亮輔	特定助教																																						
森岡 一朗	特命教授																																						
池田 真理子	特命准教授																																						
森 健	特命講師																																						
富岡 和美	特命助教																																						
中西 啓太	特命助教																																						
藤村 順也	特命助教																																						
西村 範行	特命教授																																						
前山 花織	特命助教																																						
実習概要	小児科学は新生児から思春期までの患児を対象とする学問である。実習は内科系講座小児科学分野が担当する。小児は常に成長・発達過程にある。実習においては、それぞれの年齢における特有の生理的状態と成長・発達に伴う変化、および疾患の病態を理解する。すなわち外来および病棟で患児・家族と接する中において、小児期に特有な疾患に対する診断や管理の方法を学び、また、疾患のみではなく、社会的な側面も含めて人間として患児と接する態度を習得する。 ●外来実習：専門外来の見学などを通じて、診断の技法、患児・家族に接する態度を習得する。学生の能力・希望に応じて初診患者の予診を担当することも可能である。 ●模型を使った処置実習：シミュレータを用いて、小児科における手技を実践・習得する。 ●ユニット講義：産科婦人科学と小児科学とが合同で行う。小児科学ユニット講義では、専門分野のトピックスや重要な疾患概念を紹介する。また、病理診断学では小児疾患の病理について学ぶ。 ●病棟・外来処置見学：実際の検査や診療場面を通じて、小児に特有の診断・面接の技法について研修する。																																						

	●病棟診察：小児疾患は病状の変化がはやい。1日1回は必ず患児の診察を行い、担当医とのディスカッションを通じて、患児に対する理解を深める。2日目以降の学内実習では、新生児を担当する学生は朝8時にNICU内に集合する。その他の学生は各指導医に指示された時間・場所に集合する。 ●回診：＜火曜日＞NICU回診は12時30分から開始するので、10分前には中央診療棟4階周産母子センターベビー室に入室し、NICU内に集合する。NICU回診終了後、13時30分よりこどもセンター回診を開始するので、13時30分に病棟4階のカンファレンス室に集合する。 ＜金曜日＞ 13時30分よりこどもセンターにおいて小児科重症回診を開始するので、5分前に病棟4階のカンファレンス室に集合する。 ●学外関連病院や開業医院、神戸こども初期急病センターにおいても実習を行い、プライマリケアを含め小児に対する幅広い臨床態度を習得する。
到達目標	1) 新生児から思春期までの成長・発達、年齢とともにダイナミックに変化する小児の生理的特徴を理解する。 2) 主訴から診断推論を組み立て、多くの鑑別診断をあげ、検査治療計画をたてる。 3) 患児および保護者からの効果的な問診方法を学ぶ。 4) 症例を簡潔に要約してプレゼンテーションできる。 5) 基本的な小児科診察技能を学ぶ。 6) 以下の小児疾患・病態について概説できる。 先天性疾患 新生児黄疸 新生児期の呼吸障害 早産および低出生体重児 血液・造血器・リンパ系疾患 神経系・筋疾患 循環器系疾患 呼吸器系疾患 腎・尿路系疾患 内分泌・栄養・代謝系疾患 感染症 免疫・アレルギー疾患
実習評価	実習全体を通じて、医療面接、身体診察、診療記録、コミュニケーション力、診療態度・責任感について評価する。また、実習の最終日に、担当症例に関するレポートを提出し、同時に行う試問により、症例の理解、自己学習態度、症例プレゼンテーション能力を評価する。さらに、小児に特徴的なバイタルサイン、検査所見、入退院適応についての知識を獲得できたかどうかを評価の対象とする。
科目別試験	試験は客観式で行う。上記の到達目標の項目より出題する。
オリエンテーション	初日の月曜日にオリエンテーションを行う。午前8時50分（初日の月曜日が休日の場合、火曜日午前8時30分）に4階南病棟（こどもセンター）内の処置室横の面談室に集合する。
服装に関する留意事項	当科における規定はなく、学内外の実習に適した標準的な服装とする。

ユニット	ユニット G
サブユニット名	循環器 1 (循環器内科)
BSL 担当教員 ／連絡先	原 哲也 (連絡先：医局／内線 5846, PHS 71158)
実習担当教員	内科学講座 循環器内科学分野 平田 健一 教授 内科学講座 循環器内科学分野 山下 智也 准教授 内科学講座 循環器内科学分野 不整脈先端治療部門 福沢 公二 特命准教授 内科学講座 循環器内科学分野 田中 秀和 講師 地域社会医学・健康科学講座 医学教育学分野 小林 成美 特命講師 内科学講座 循環器内科学分野 木内 邦彦 特命助教 内科学講座 循環器内科学分野 冠動脈疾患治療部 大竹 寛雅 助教 地域社会医学・健康科学講座 地域医療ネットワーク学分野 松本 賢亮 特命講師 内科学講座 循環器内科学分野 森 俊平 特定助教 内科学講座 循環器内科学分野 川森 裕之 特定助教 内科学講座 循環器内科学分野 原 哲也 特定助教 内科学講座 循環器内科学分野 谷口 悠 特命助教 内科学講座 循環器内科学分野 高見 充 特命助教
実習概要	2 週間にわたり、講義、実習、課題発表を行っていく。3 人 1 組の小グループで 1 名の患者を 2 週間にわたり担当する。担当患者さんについては、自ら問診や診察などを行い、疾患についての学習はもちろんのこと、問題点をとらえてアセスメントを行いどのように解決していくのか一連の流れを踏まえて木曜日のチャートカンファレンスで発表する（第二週目に発表）。
到達目標	・循環器症候学の基礎を踏まえ、診断仮説や鑑別診断を十分意識した問診が行える。 ・診断仮説や鑑別診断を意識した適切な診察項目を選択し、正しい所見がとれる。 ・病歴と身体診察に基づいた血行動態の評価を行うことができる。 ・病歴、身体診察から得られた所見に基づき適切な仮説を立て、それを証明するための適切な検査項目が選択できる。 ・これらのプロセスを通じて学んだことを、自己学習にフィードバックできること。
実習評価	上記の循環器内科到達目標を評価基準とし、チャートカンファレンスの発表、循環器疾患に関しての試問結果、各講義担当教員の評価、小テストの結果、出席状況などを総合して評価を行う。
科目別試験	試験は記述式で行う。全循環器疾患と関連疾患を対象として出題する。BSL 期間中に学ぶ検査や疾患に関連した講義、最新の検査法や治療法なども全て含まれます。
オリエンテーション	月曜日午前 9 時 00 分に循環器内科（5 階）医局に集合。なお、第一週月曜日が祝日の場合は BSL 前週金曜日午前中までに PHS 71158（原）まで連絡・確認のこと。
服装に関する留意事項	白衣と名札を必ず着用し、清潔な服装に心がけ、患者さんに失礼のない最低限度の身だしなみに留意してください。

ユニット	ユニット G
サブユニット名	循環器 2 (心臓血管外科)
BSL 担当教員 ／連絡先	外科学講座 心臓血管外科学分野 中井秀和 特定助教 (連絡先：医局／内線 5 9 4 2)
実習担当教員	外科学講座 心臓血管外科学分野 大北 裕 教授 外科学講座 低侵襲外科学分野 田中 裕史 特命教授 外科学講座 心臓血管外科学分野 井上 武 講師 外科学講座 心臓血管外科学分野 松枝 崇 特定助教 外科学講座 心臓血管外科学分野 中井 秀和 特定助教 外科学講座 心臓血管外科学分野 邊見 宗一郎 特定助教 外科学講座 心臓血管外科学分野 後竹 康子 特定助教
実習概要	担当症例において、術前評価、手洗い、手術見学、術後管理について学習する。OSCE 対応のため、いくつかのユニットを通して、診察の実技訓練を行う予定になっている。本ユニットでは胸部診察および心音聴取を受け持つ。胸部の診察法の原則と視診、打診、聴診、触診の実際を、循環器疾患について訓練する。
到達目標	1) 患者とのコミュニケーション、問診をはじめとした診察方法の習得。 2) 疾患の病態生理、術前評価、手術、術後管理の内容理解。 3) ガウンテクニックなどの外科的手技を理解し習得する。
実習評価	出席が前提である。 実習であるので、一定の出席率に達しないものは不合格とする。 出席以外の評価項目は、担当症例の発表、症例レポート（提出しかつ OK の評価がなければ BSL は不合格）などでの到達度と、主治医団のなかでの熱意、患者関係、他の医療スタッフとの関係、診察手技の習熟、最後の実習評価における実習成果の評価により行う。
科目別試験	試験は選択式で行う。BSL で講義した内容を中心とし、診断から手術方法まであらゆる心臓血管外科領域を含む。
オリエンテーション	月曜日午前 8 時に外来診療棟 5 階、心臓血管外科医局に集合。 なお、同時間はカンファレンス中であるため、静かに入室すること。ただし、月曜が祝日の場合は BSL 前週金曜日午前中までに担当教員（中井）まで連絡・確認のこと。
服装に関する留意事項	別途策定する標準的服装でお願いします。

ユニット	ユニットG
サブユニット名	麻酔（麻酔科）
B S L 担当教員 ／連絡先	岡田雅子 PHS74524・小幡典彦 PHS74523 医局/内線 6172
実習担当教員	外科系講座 麻酔科学分野 溝渕 知司 教授 外科系講座 麻酔科学分野 高雄 由美子 准教授 国際がん医療研究センター 麻酔科 出田 眞一郎 特命准教授 医学部附属病院 麻酔科 江木 盛時 特命准教授 医学部附属病院 集中治療部 三住 拓誉 助教 外科系講座 麻酔科学分野 佐藤 仁昭 助教 外科系講座 麻酔科学分野 眞田 かなえ 助教 医学部附属病院 麻酔科 小幡 典彦 助教 医学部附属病院 麻酔科 岡田 雅子 助教 医学部附属病院 麻酔科 大井 まゆ 助教 医学部附属病院 麻酔科 野村 有紀 助教 医学部附属病院 麻酔科 中川 明美 特定助教 医学部附属病院 麻酔科 巻野 将平 特定助教 医学部附属病院 麻酔科 久保田 健太 特命助教

ユニット	ユニットH			
サブユニット名	耳鼻（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）			
B S L 担当教員 ／連絡先	大月直樹（連絡先：医局／内線 6 0 2 4, PHS 7 3 9 1 9）			
実習担当教員	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	丹生 健一	教授	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	柿木 章伸	特命教授	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	大月 直樹	准教授	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	森本 浩一	特命准教授	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	藤尾 久美	講師	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	井之口 豪	講師	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	四宮 弘隆	助教	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	手島 直則	助教	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	上原 奈津美	助教	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	古川 竜也	助教	
	外科系講座 耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野	森田 成彦	助教	
	西神戸医療センター 耳鼻咽喉科	雲井 一夫	臨床教授	
	兵庫県立がんセンター 頭頸部外科	岩江 信法	臨床教授	
	神戸労災病院 耳鼻咽喉科	細見 慶和	臨床教授	
	兵庫県立こども病院 耳鼻咽喉科	大津 雅秀	臨床教授	
	さいとう耳鼻咽喉科クリニック	齋藤 幹	非常勤講師	
	いのうえ耳鼻咽喉科クリニック	井上 博之	非常勤講師	
	ふじしま耳鼻咽喉科クリニック	藤島 禎弘	非常勤講師	
	谷本耳鼻咽喉科	谷本 均	非常勤講師	
	はせがわ耳鼻咽喉科クリニック	長谷川 信吾	非常勤講師	
	にしかわ耳鼻咽喉科	西川 匡	非常勤講師	
	古閑耳鼻咽喉科クリニック	古閑 紀雄	非常勤講師	
	金城耳鼻咽喉科	金城 東和	非常勤講師	
	実習概要	耳鼻咽喉・頭頸部外科の診療領域には、感覚器である耳をはじめ、気道である鼻腔・喉頭・気管、食物路である口腔・咽頭・食道、さらに唾液腺、甲状腺といった外・内分泌腺などさまざまな臓器が含まれる。耳鼻咽喉・頭頸部外科では呼吸や嚥下といった生命維持に必須の機能から、発声・構音などの音声機能、聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚など「ヒト」が「人」らしく生きていくための感覚機能まで幅広い分野の疾患を取り扱います。		
		外来実習では、初診および専門外来（耳外来、めまい外来、喉頭外来、甲状腺・唾液腺外来）に参加して診療の実際を学びます。手術室では積極的に手洗いして手術に参加することにより、耳鼻咽喉科および頭頸部外科領域の解剖と手術の実際について理解を深めます。手術症例は術中所見を見学するだけでなく、基本的な外科手技について学習します。また、シュミレーターを用いた喉頭内視鏡検査および耳鏡検査や3Dプリンター作成モデルを用いた鼻内内視鏡手術および側頭骨手術を体験し、耳鼻咽喉科の魅力を体感してもらいます。臨床講義では大学以外の病院または診療所の講師による実地診療に関する講義を聞き、耳鼻咽喉科の種々の診療内容について理解を深めてもらいます。ユニット開始までに系統講義プリントの内容について十分に復習し、手術見学にあたっては、耳鼻咽喉・頭頸部領域の解剖をよく勉強しておいて下さい。		
	到達目標	耳鼻・咽喉・口腔の構造と機能を理解し、耳鼻・咽喉・口腔系疾患の症候、病態、診断と治療を理解する。以下の実習項目を習得する。		

	①耳（耳介、聴力）の診察ができる。 ②耳鏡で外耳道、鼓膜を観察できる。 ③聴力試験を実施できる。 ④口唇、口腔、咽頭、扁桃の診察ができる。 ⑤鼻腔、副鼻腔の診察ができる。 ⑥鼻鏡および内視鏡を用いて鼻腔、咽喉頭を観察できる。 ⑦甲状腺、頸部血管、気管、唾液腺の診察ができる。 ⑧頭頸部リンパ節の診察ができる。
実習評価	耳鼻咽喉・頭頸部外科ではBSL評価項目に基づき、出席状況、学習課題のレポート、耳鼻咽喉科に関する基本的実習の理解度および学習態度などを総合して判定します。 BSL診療科評価項目①清潔操作および手術介助ができる②聴力検査ができる③耳鏡検査ができる④喉頭内視鏡検査ができる⑤頸部超音波検査ができる
科目別試験	試験は○×形式で行います。系統講義で学習した内容から出題します。
オリエンテーション	月曜日（実習初日）午前9時から耳鼻咽喉科医局（カンファレンス室）で行います。この際にレポートの学習課題の割当を行います。月曜日が祝日の場合、火曜日の午前9時から医局に集合し、診察法実習終了後にオリエンテーションを行う予定です。
服装に関する留意事項	とくになし

ユニット	ユニットH
サブユニット名	形成（形成外科）
B S L 担当教員 ／連絡先	野村 正 （連絡先：医局／内線 6 2 5 1, PHS 7 4 2 1 4）
実習担当教員	外科系講座 形成外科学分野 寺師 浩人 教授 外科系講座 形成外科学分野 橋川 和信 准教授 外科系講座 形成外科学分野 一瀬 晃洋 特命准教授 外科系講座 形成外科学分野 野村 正 特命講師 外科系講座 形成外科学分野 大崎 健夫 特定助教 外科系講座 形成外科学分野 岩山 隆憲 特定助教 外科系講座 形成外科学分野 田村 亮介 特定助教 外科系講座 形成外科学分野 大澤 沙由理 助教 外科系講座 形成外科学分野 榎原 俊介 名誉准教授 （兵庫県立がんセンター 医長） 学外実習担当講師 神戸赤十字病院形成外科 小川 晴生 部長 淀川キリスト教病院形成外科 大守 誠 部長 県立加古川医療センター形成外科 櫻井 敦 主任医長 神鋼記念病院形成外科 奥村 興 科長 新須磨病院形成外科 辻 依子 医長 明和病院形成外科 蔡 顯真 部長 宝塚市立病院 形成外科 見目 和崇 主任医長 三田市民病院 形成外科 皐月 玲子 医長 姫路医療センター 形成外科 石椋 寛芳 医長 加古川中央市民病院 形成外科 岩谷 博篤 医長 六甲アイランド甲南病院 形成外科 芝岡 美枝 医長 製鉄記念広畑病院 形成外科 政岡 浩輔 部長
実習概要	ミニレクチャー、術前・術後カンファレンス、外来、手術見学・手洗い実習、学外実習を通じて形成外科の取り扱い疾患について学ぶ。また、縫合実習を行い、形成外科の基本手技について触れ、理解する。カンファレンス時に、担当症例の割り当てを行うので、その症例について、手洗い実習・手術見学を行い、実習後にレポートを提出する（提出先：形成外科学教室 提出期限：翌週月曜 17 時、翌週月曜日が祝日の場合は休み明け初日に提出）。
到達目標	1) 形成外科の取り扱い疾患について理解する。 2) 創傷治癒の基本事項について理解する。 3) 外傷、再建外科など形成外科の治療手技について学習する。 4) 縫合実習・手洗い実習を通じて、形成外科の手術について理解を深める。 5) 担当した症例について、実習後に診断、治療方針、治療法などを含め勉強し、レポートを作成する。
実習評価	出席状況、実習態度、担当した症例レポートの内容などにより評価を行う。
科目別試験	筆記形式（○×形式）で行う。B S L 実習中および 4 年次のチュートリアル教育における到達目標（ミニマムリクワイアメント）として提示した内容より出題する。
オリエンテーション	月曜 9:00 に形成外科学教室（※中央診療棟 7F）に集合。 なお、月曜日が祝日の場合、火曜 9:30 に形成外科学教室に集合のこと。 ※輸血部や研修医室と同じ棟です。
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットH
サブユニット名	眼（眼科）
B S L 担当教員 ／連絡先	栗本拓治（連絡先：医局／内線 6 0 4 8, PHS 7 3 8 1 5）
実習担当教員	外科系講座 眼科学分野 中村 誠 教授 外科系講座 眼科学分野 本田 茂 准教授 外科系講座 眼科学分野 山田 裕子 講師 外科系講座 眼科学分野 楠原 仙太郎 講師 外科系講座 眼科学分野 今井 尚徳 病院講師 外科系講座 眼科学分野 長井 隆行 助教 外科系講座 眼科学分野 井上 結香子 助教 外科系講座 眼科学分野 三木 明子 助教 外科系講座 眼科学分野 栗本 拓治 特定助教 外科系講座 眼科学分野 松宮 亘 助教
実習概要	眼科では、主に外来及び手術見学、担当症例を通じて眼科診療の実際を経験する。外来見学では多様な眼科疾患の診断や治療方針について、手術見学では手術手技を通じた眼球の構造や解剖について理解し、実習面では、視力、細隙灯顕微鏡検査、眼底検査、模擬眼を使ったマイクロサージャリー等を予定している。また、実習期間中に問題集を読破し、眼科全般についての知識を深める。
到達目標	1. 眼球の構造と機能を理解する。 2. 眼科主要症候、視力検査、診察、鑑別診断のための検査、治療（主に手術）といった眼科診療の基本的な流れを理解し、細隙灯顕微鏡、眼底検査などの基本診察手技を実習する。指導医の監督下にて担当患者の診察を行う。 3. 代表的な眼・視覚系の良性疾患、腫瘍性疾患についての診断や治療方法を理解する。 4. マイクロサージャリーについて理解し、模擬眼を用いて白内障手術の基本的な手術操作を経験する。
実習評価	眼科では、出席および取り組み態度・担当医による病棟での患者診察態度の観察評価・レポート内容・小テスト・眼底検査実習の評価・代表疾患の理解度（手術加療を含む）の口頭試問・マイクロサージャリー実習（白内障手術）の口頭試問・観察評価を行う。
科目別試験	試験は主に客観形式で行う。
オリエンテーション	眼科では、月曜午前にオリエンテーションを行う。 月曜が祝日の場合は前週金曜日 17 時までに担当教員まで連絡・確認のこと。 時間割や担当の変更などはその都度伝達する。
服装に関する留意事項	別途策定する標準的な服装を心がける。

ユニット	ユニットH
サブユニット名	皮膚（皮膚科）
B S L 担当教員 ／連絡先	福永 淳（連絡先：医局／内線 6134, PHS 72505）
実習担当教員	内科系講座 皮膚科学分野 錦織 千佳子 教授 内科系講座 皮膚科学分野 永井 宏 准教授 内科系講座 皮膚科学分野 福永 淳 講師 内科系講座 皮膚科学分野 国定 充 講師 内科系講座 皮膚科学分野 小野 竜輔 助教 内科系講座 皮膚科学分野 藤原 進 助教 内科系講座 皮膚科学分野 辻本 昌理子 助教 内科系講座 皮膚科学分野 西山 智司 助教 内科系講座 皮膚科学分野 田島 翔子 助教
実習概要	皮膚科では、外来診療における問診、視診、触診を通して様々な皮膚疾患に触れ、診断に至る考え方、鑑別診断ならびに治療法の選択について学ぶ。火曜日の症例カンファレンスでは皮膚病変のマクロとミクロ（病理組織）から鑑別疾患を挙げ、診断に至るプロセスを学ぶ。水曜日に皮膚外科手術の見学を行うが、できる限り手洗いをしたうえで、皮膚科で扱う疾患の特性を学ぶ。担当教員による各疾患群についてのミニレクチャーが行われ皮膚疾患に対する理解を深める。
到達目標	1) 皮膚の構造と機能の理解 2) 発疹を中心とした皮膚科症候学、記載皮膚科学、皮膚科学的診察の基本と、鑑別診断のための検査方法を学ぶ。 3) 皮膚の代表的な疾患群（湿疹、蕁麻疹、紅斑症、紫斑、薬疹、水疱症、膿疱症、角化症、皮膚感染症、皮膚腫瘍、皮膚付属器疾患）について基本的な病態、症状、治療法を理解する。
実習評価	皮膚科では、レポート提出の他、以下の点から各講義の担当医、配属患者の担当医の意見も勘案して最終評価を行う。 1 配属患者との意志疎通は円滑であったか 2 配属症例の病態の把握とその報告が適切にできたか。 3 配属症例の病態から適切に問題を抽出し、その解決ができたか。 4 配属症例の診断と治療の場において積極的に参加したか。 5 皮膚科に関する基本的な知識が十分であったか。 6 講義や外来見学における態度、意欲が適切であったか。 7 適切に皮膚縫合が行うことができたか。 8 適切に皮疹の所見を述べることができたか。
科目別試験	試験は主に選択形式の筆記試験で行う。
オリエンテーション	実習初日 8 時 45 分に皮膚科外来 5 診に集合（担当；福永）。
服装に関する留意事項	特に規定なし。 外来にて予診をとってもらいますので、外来見学中の私語、腕や足を組むなどの礼儀を欠いた患者の前での行為は厳禁とする。

ユニット	ユニットⅠ
サブユニット名	神経１（神経内科）
B S L 担当教員 ／連絡先	千原 典夫 （連絡先：医局／内線５８８５，PHS ７１８０７）
実習担当教員	内科学講座 神経内科学分野 関口 兼司 准教授 生理学細胞生物学講座 分子脳科学分野 佐竹 渉 助教 内科学講座 神経内科学分野 上田 健博 特命講師 内科学講座 神経内科学分野 千原 典夫 特定助教 内科学講座 神経内科学分野 大塚 喜久 特定助教 内科学講座 神経内科学分野 立花 久嗣 特定助教
実習概要	【基本方針】サブユニット（神経１）では、「診察技術の体得と問題解決型臨床推理の体験」を目標とし、正しく神経学的所見をとることにより、責任病巣にせまる神経診断学の実際について学ぶ。具体的には病棟実習で担当する症例の神経学的診察所見をとり、そこからいかにして責任病巣を推定できるか、さらに各種の補助検査で正しくその診断を確認できるか、という過程を学習する。 【講義】講義では症例学習などを通じて神経内科疾患の各論について学習する。筋電図検査の実際を体験することにより、診断に役立つ臨床神経生理学的知識を身に付ける。
到達目標	１）神経系の正常構造と機能を理解する。 ２）神経学的診察法を修得し、局在診断の意義を理解する。 ３）主な神経系疾患の病態生理、原因、症候、診断と治療を学ぶ。
実習評価	評価は実習・講義など全カリキュラムへの出席とレポート提出を最低条件とする。無断欠席、遅刻は不合格の対象となる。その他、症例レポートの内容、担当症例の主治医・指導医による評価、試問結果により評価を行う。 また、以下の観点から、配属患者の担当医の意見も参考にして、評価を行う。 ・配属患者との意志疎通は円滑であったか。 ・配属症例の病態の把握とその報告が適切に出来たか。 ・神経学的診察ができ、所見のまとめと局在診断が出来たか。 ・配属症例の病態から適切に問題を抽出し、その解決が出来たか。 ・配属症例の診断と治療の場に積極的に参加したか。 ・コメディカルと良好な関係を築けたか。
科目別試験	試験は客観式で行う。チュートリアル講義、およびB S Lのほか、コアカリキュラムを加味して出題する。
オリエンテーション	月曜 9：00 に外来棟 6 階神経内科医局会議室に集合。 なお、月曜が祝日の場合は火曜日のカリキュラムから行う。
服装に関する留意事項	患者さんと接する上で問題のない標準的な服装で参加する。

ユニット	ユニットⅠ
サブユニット名	腫瘍血液（腫瘍・血液内科）
B S L 担当教員 ／連絡先	豊田 昌徳　／　医局：内線 5820　、PHS 71909
実習担当教員	内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　南　博信　教授 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　松岡　広　准教授 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　清田　尚臣　特命准教授 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　薬師神公和　講師 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　豊田　昌徳　助教 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　船越　洋平　特定助教 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　今村　善宣　特定助教 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　宮田　吉晴　医員 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　茶屋原　菜穂子　非常勤講師 内科学講座　腫瘍・血液内科学分野　山本　克也　非常勤講師 病理部　伊藤　智雄　教授 輸血・細胞治療部　川本　晋一郎　講師
実習概要	腫瘍・血液内科では、腫瘍の病態、診断と治療（薬物療法・集学的治療）を担当患者の診察を通して学ぶ。がん患者の診療においては、多様なニーズに対応することが必要であり、多職種連携・多職種協働を円滑に行い患者中心のチーム医療を実践する必要がある。実習では、診療チームに帯同し、がんのチーム医療についての理解を深める。また、腫瘍血液内科学に関連する実習や講義を、実践的な内容および形式で行うことで知識の習得を図る。各自 1 名ずつ、悪性疾患を有する患者を 1 週間担当し、病歴の聴取、診察手技、エビデンスに基づいた治療とエビデンスの批判的吟味、患者・家族・医療者とのコミュニケーションスキルを学び、症例レポートを作成する。 症例レポートは、一般的な患者背景と画像所見、検査所見の意義付け、患者さんのトータルの病態の説明、問題点に対する評価、治療方針についてまとめる。レポートには各問題点について考察を加え、担当教員およびグループ内でディスカッションを行えるように学習し、各症例を全体で共有することで理解を深める。
到達目標	・腫瘍の症候、グレードやステージ、病態、診断、治療を概説できる。 ・腫瘍の薬物療法（殺細胞性抗癌薬、分子標的薬、免疫チェックポイント阻害薬、ホルモン療法）を概説できる。 ・腫瘍の診療における支持療法を概説できる。 ・腫瘍の診療におけるチーム医療を概説できる。 ・腫瘍性疾患をもつ患者の置かれている状況を深く認識し、全人的ながん医療を理解する。
実習評価	・適切な医療面接や身体診察ができる。 ・症例を理解し、診療記録を適切に記載できる。 ・適切なコミュニケーションを通じて、患者・家族・医療者と良好な人間関係を築くことができる。 ・責任感をもって診療にあたることができる。 ・問題点を自己学習により解決することができる。 ・腫瘍の症候、グレードやステージ、病態、診断、治療を概説できる。 ・治療目的を理解して、エビデンスに基づいた治療、支持療法を説明できる。 ・診療チームの一員として診療に取り組んでいる。 ・適切に症例プレゼンテーションができる。
科目別試験	実施しない。
オリエンテーション	月曜日、10 時から腫瘍・血液内科の医局にて行う。 月曜日が祝祭日となる場合、火曜日の 9 時に腫瘍・血液内科の医局に集合すること。
服装に関する留意事項	特になし

ユニット	ユニットⅠ
サブユニット名	精神（精神科神経科）
BSL担当教員／連絡先	松山 賢一（連絡先：医局／内線 6065, PHS 72626）
実習担当教員	内科系講座 精神医学分野 曾良 一郎 教授 内科系講座 精神医学分野 菱本 明豊 准教授 内科系講座 精神医学分野 朴 秀賢 講師 内科系講座 精神医学分野 青山 慎介 講師 内科系講座 精神医学分野 田宮 裕子 助教 内科系講座 精神医学分野 大塚 郁夫 助教 内科系講座 精神医学分野 木村 敦 助教 内科系講座 精神医学分野 蓬萊 政 助教 内科系講座 精神医学分野 松山 賢一 助教
実習概要	精神科神経科では、外来実習では一般外来及び特殊外来における患者診察の実際を学び、初診患者の予診を行う。また、病棟実習では、患者の主治医とともに精神医学の実際を学ぶ。これらを通して、面接法、問診法とともに、基本的な精神科診断学、治療論について学んでほしい。病院外実習および院内の作業療法実習では、精神科リハビリテーションの実際を学び、慢性患者の社会復帰、患者の人権および法的問題について知識を深める。これらは臨床医学全般に関わる課題であり、積極的な学習を期待する。また、BSL 期間中はケース検討の時間を設けている。教官が提示した症例を基に教官と学生で議論しながら能動的に学んで欲しい。4 年次チュートリアルで学んだことが実地にいかされ、治療論に系統的に展開できるような学習に努められたい。
到達目標	1) 基本的な精神症状の評価の仕方、面接法を学ぶ。 2) 統合失調症の症候と診断を説明できる。 3) うつ病、双極性障害の症候と診断を説明できる 4) 精神科医療の法と倫理に関する必須項目（精神保健及び精神障害者福祉に関する法律）を説明できる。 5) 精神科薬物療法およびリハビリテーションについて説明できる。
実習評価	1) 担当患者の診断根拠について述べることができる。 2) 担当患者の治療方針（薬物、精神療法、ケースワーク）の妥当性について述べるができる。 3) ケース検討（統合失調症スペクトラム）において、鑑別診断を述べることができる。 4) ケース検討（気分障害）において、鑑別診断を述べることができる。 5) 作業療法実習で積極的に患者さんと関わることができる。
科目別試験	3 年時の系統講義の内容と BSL で学んだ内容から主に出题する。
オリエンテーション	集合場所：清明寮 2 階カンファ室 集合時間：月曜日 10 時（月曜日が休日の週は火曜日 10 時）
服装に関する留意事項	関連病院の実習では、汚れてもよい、動きやすい服装で参加すること（女性の方はスカートやハイヒールはやめたほうがいいでしょう）。

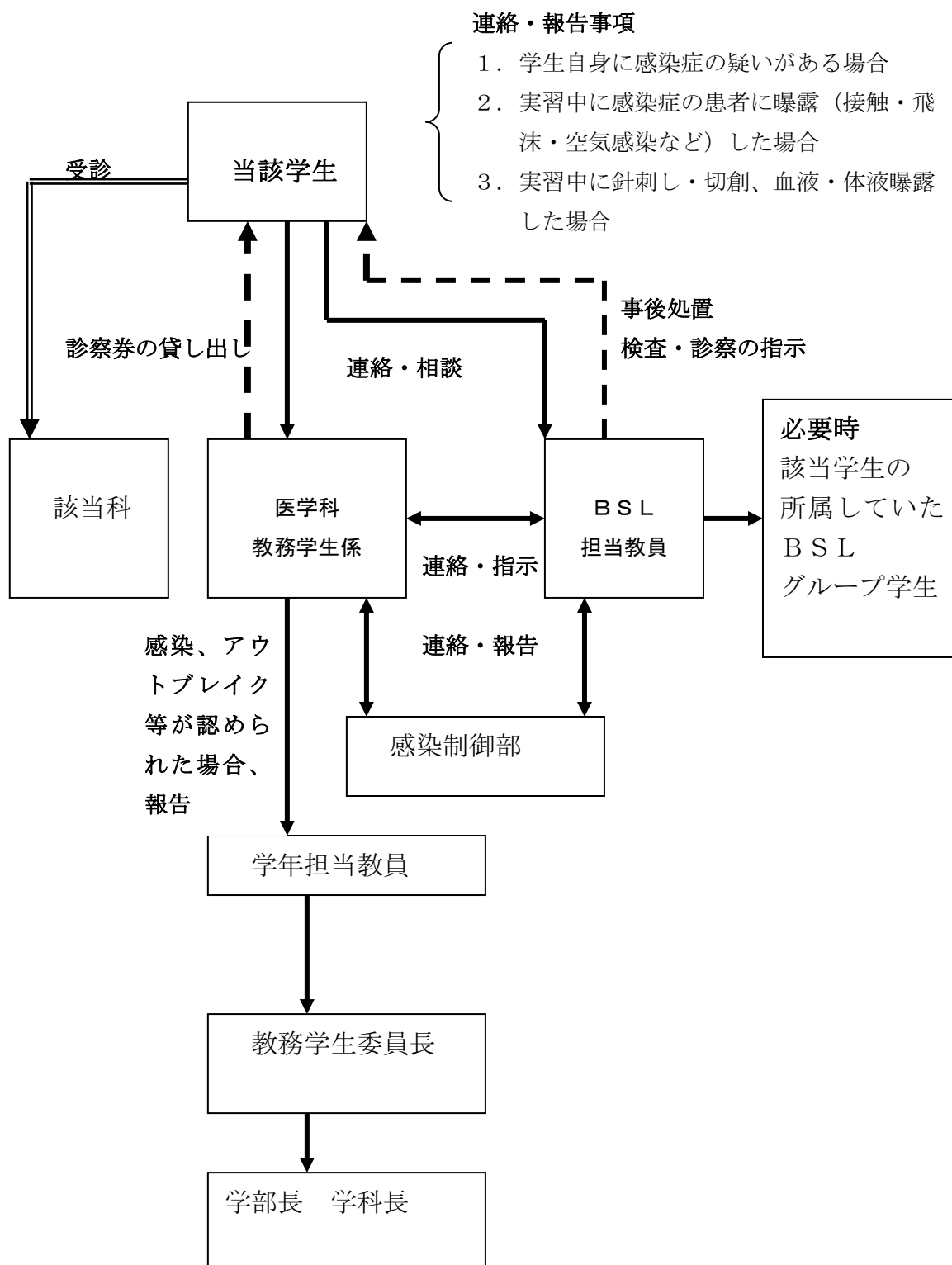
剖検ならびに剖検会への参加について

臨床医学の発展と医科学の進歩における剖検（病理解剖）の果たしてきた役割は多大なものがあり、診断技術の発達した今日においてもその意義は大きいことは言うまでもない。また、剖検に参加して患者の死という厳粛な事実と医療者として対面することは、学生にとっても貴重な体験である。さらに、各分野の認定医や専門医の申請にも剖検が条件として関わってくることも多く、諸君にとっても重要な実習と位置づけられる。

従来、剖検および剖検会への参加を臨床病理実習で行なってきたが、現在は病理実習が特定のユニットに分散されている。そこで、学生諸君は各ユニットにおいて、当該診療科の症例の剖検および剖検会へ、当該科教員の指導の下に適宜機会を捉えて参加することとなる。上記の剖検・剖検会の意義を十分に理解したうえで、積極的に参加し成果を挙げて欲しい。

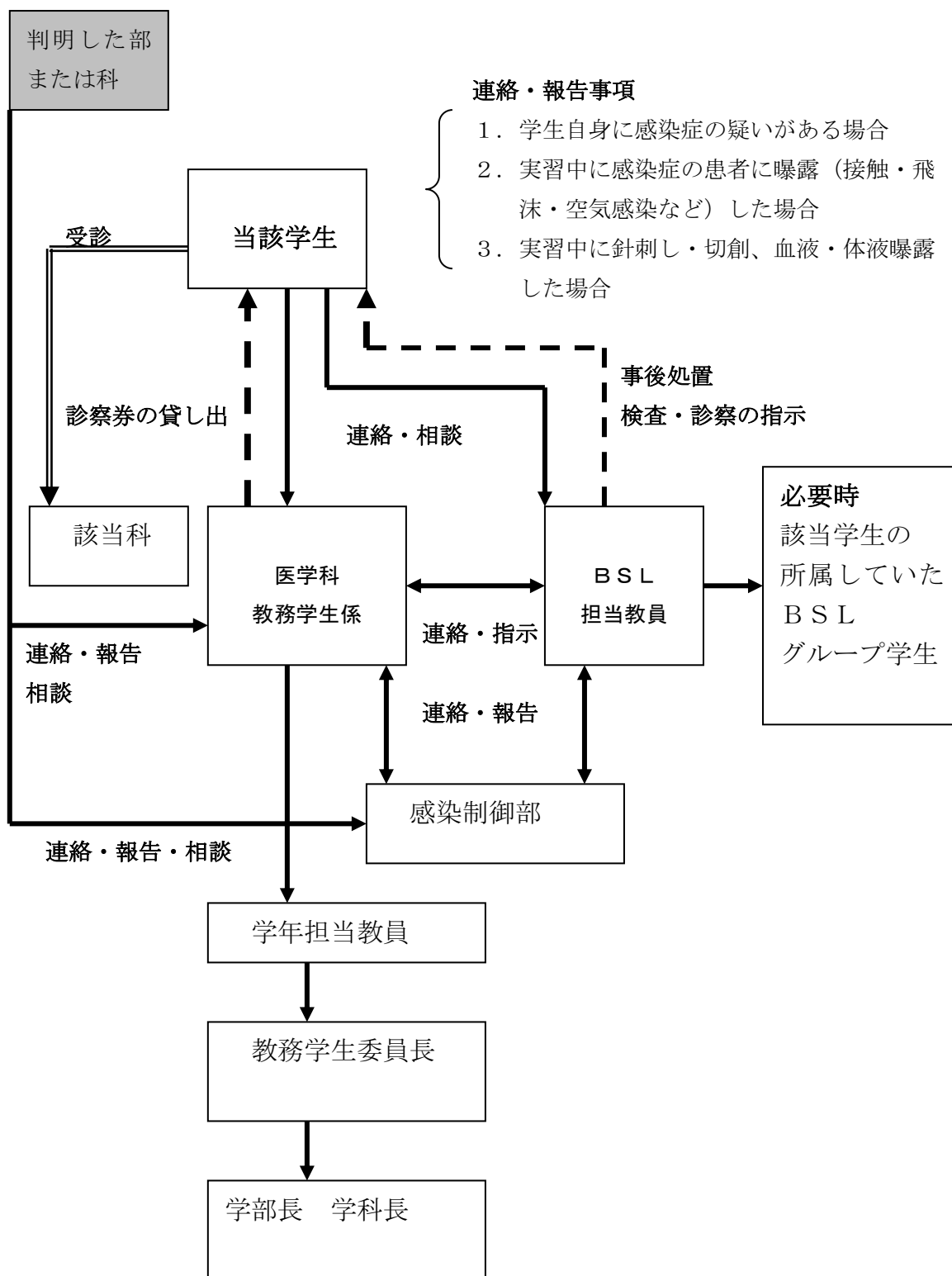
特に、剖検は予定されたスケジュールでは行われないので、参加が困難な事態も予想されるが、できる限り機会を捉えて参加するように望みたい。原則として、少なくとも1回以上の参加が必須であると考えてもらいたい。

実習中に医学部医学科学生が感染関連の連絡・報告をする場合の
フローチャートA



実習中に医学部医学科学生が感染関連の連絡・報告をする場合の フローチャートB

＜実習後、患者や医療従事者が曝露対策の必要な感染症であることが判明した場合＞



科目名：関連病院・地域実習 1

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	地域社会医学・健康科学講座 医学教育学分野 特命教授 河 野 誠 司
学習到達目標	本実習では、神戸大学医学部附属病院の関連病院の協力を得て、内科における長期間の臨床実習を実施するものである。臨床実習のみならず研究室での実習も対象とする。 臨床実習では、5年次に行ったBSL（Bed Side Learning：大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習）とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。 研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。	
実習の概要・形式	実習期間：平成31年1月28日（月）～平成31年2月22日（金） 原則として、一箇所の関連病院・診療科（内科）において臨床実習に取り組む。実習先は、学生の希望および実習先の受け入れ可能状況を考慮し、調整の上決定する。	
成績評価方法	実習の参加状況、各実習先における指導責任者の評価や、実習報告により可否を判定する。	

（内容調整中・詳細については後日配付予定）